

2024 年報

ANNUAL REPORT of SEIREI FUKUROI MUNICIPAL HOSPITAL

社会福祉法人 聖隷福祉事業団
袋井市立 聖隷袋井市民病院

seirei.or.jp/fukuroi/index.html



聖隷福祉事業団
基本理念

キリスト教精神に基づく

「隣人愛」

聖隷袋井市民病院 理念

「私たちは、利用者の視線に寄り添い、
地域に信頼される病院を
目指して歩み続けます」

基本方針

1. 患者の権利を尊重した、良質な医療を提供します
2. 医療施設や介護事業所、行政と連携し、切れ目のない支援をします
3. 資源を最大限に活用した健全経営を確立します
4. 職員はお互いを尊重し合い、心理的安全性の高い職場を作ります
5. 職員は自らの専門性を高めるとともに、

病院として地域に貢献できる医療人の育成に努めます

目次(最終調整)

■年報発刊にあたって.....	1
■沿革.....	2
■2024 年度事業計画	
・ 2024 年度事業計画.....	3
・ 2024 年度事業報告.....	5
■病院概要	
・ 病棟構成・職員状況.....	7
・ 組織図.....	9
・ 委員会会議名簿.....	10
・ 委員会活動報告.....	11
・ 多職種協働プロジェクト活動報告.....	17
・ NR 協働会議・委員会活動報告.....	19
■病院統計	
・ 各種統計（入院・外来・介護保険サービス等）.....	21
・ 財務統計.....	25
・ 患者満足度調査.....	26
■業務実績	
・ センター部門（医療安全管理室・感染管理室・退院支援室・在宅支援室）.....	27
・ 診療部.....	29
・ 看護部.....	30
・ 3 階病棟.....	32
・ 4 階病棟.....	33
・ 5 階病棟.....	34
・ 外来.....	35
・ 事務・診療技術部門	
・ リハビリテーション室.....	36
・ 薬剤室.....	37
・ 臨床検査室	
・ 画像診断室.....	38
・ 栄養管理室	
・ 事務課.....	39
■学術実績（講演・学会発表、著書・論文）.....	40
■教育実績（階層別研修、NR 研修、委員会主催研修、実習生受け入れ）.....	43
■メディア掲載.....	47
■袋井市との協働	48

袋井市立聖隷袋井市民病院の 2024 年度年報を、こうして皆さまにお届けできることを心よりうれしく思います。まずは、日頃より当院を支えてくださっている地域の皆さま、関係機関の皆さま、そして日々尽力している職員一人ひとりに、深く感謝申し上げます。

2024 年度、当院は開設 12 年目を迎えました。この節目に、私たちはこれまでの歩みを振り返りつつ、これからの在り方を見つめ直す重要な一年と位置づけました。理念と基本方針を見直し、「利用者の視線に寄り添う」という姿勢を改めて明確に掲げることで、医療の方向性や価値観を職員間で再確認しました。そして、「共感力と協働」をキーワードに、多職種が専門性を超えて連携し、地域の皆さまに安心と信頼の医療を提供することを目指しました。

この姿勢を具体化する取り組みとして、多職種による質改善活動を推進しました。認知症ケアでは、生活歴や個別ニーズに応じた支援を充実させ、レクリエーションやデイケアとの連携も進めました。終末期医療では、緩和ケアの視点を重視した多職種カンファレンスを実施し、評価指標の整備を通じて、より温かく丁寧な看取り支援の体制を整備しました。これらは、患者さま本位の医療の質を高める大切な基盤となっています。

また、当院の強みであるリハビリテーション医療においても、着実な前進が見られました。回復期病棟では、自主訓練の導入率が 6 割を超え、患者の主体的な回復を支援する体制を整えました。摂食・嚥下機能検査の実施率も大きく向上し、必要な医療をタイムリーに提供する仕組みが強化されています。高次脳機能障害に対しては、地域の事業所や家族会と連携した研修により、職員の理解と対応力が着実に高まっています。

地域共生の観点では、「ふくろい地域リハビリテーションをはぐくむ会」の継続開催を通じて、地域の多職種との連携と理解を深めました。訪問診療ではボツリヌス療法の導入、訪問リハビリでは対象地域の拡大を行い、より多くの方に必要な医療を届ける体制を強化しました。ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の普及にも取り組み、市民講座の開催や院外講師の育成などを通じて、市民にとっても身近なテーマとなるよう努めました。

さらに、働きやすい職場環境の整備と人材育成にも力を注ぎました。中高生向けの「お仕事リサーチ」や「ナース体験」など、若い世代に医療職の魅力を伝える機会を設けるとともに、認定看護師や特定看護師の資格取得を支援する体制も強化しました。介護・育児・治療との両立を可能にする制度整備も進み、職員の離職防止にも一定の成果を上げています。

経営面では、感染症の影響が続く中でも、病床稼働率は年度末にかけて高水準を維持し、病棟課長や連携室による柔軟なベッドコントロールが功を奏しました。回復期リハビリテーション病棟の施設基準でも上位を取得し、職員の取り組みが実を結んでいます。また、災害対策としては BCP（事業継続計画）の改定を行い、発災後の対応を可視化することで体制の強化を図りました。



このように、2024 年度も私たちは一つひとつの取り組みに、地域の皆さまへの責任と信頼への応答を込めてきました。本年報を通じて、当院の歩みと地域医療への思いを感じ取っていただければ幸いです。今後も、聖隷袋井市民病院は、地域の急性期病院や在宅支援機関、行政との連携を一層深め、患者さま一人ひとりの人生に寄り添う医療を提供し続けてまいります。引き続き、皆さまの温かいご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

病院長 林泰広

沿革

1945年	5月	日本医療団袋井健奨寮として産業労働省のため開設
1947年	11月	協立袋井病院開設（袋井市高尾）
1955年	8月	共立袋井病院開設（142床）（袋井市久能）
1971年	6月	袋井市が受け継ぎ袋井市立袋井市民病院と改称
1979年	12月	袋井市久能地内に移転新築オープン（305床）
1989年	10月	西病棟150床増設（許可病床455床、稼働病床400床）
2006年	11月	許可病床400床に変更
2013年	5月	袋井市立聖隷袋井市民病院開設（聖隷福祉事業団が指定管理者受託）、一般病棟50床、脳神経外科・内科標榜 宮本恒彦院長、病院長就任 オーダリングシステム（Mirai's）導入
	6月	保険診療開始（7名の入院患者）
2014年	4月	整形外科標榜
	7月	CT更新
	8月	西棟増築工事完了、一般病棟50床移設
	9月	療養病棟50床許可、36床オープン
2015年	5月	袋井市総合健康センター（地域包括ケア推進係、保健、社会福祉協議会などの福祉機能）と同一建物内での運営
	8月	摂食機能療法算定開始
2016年	4月	3階回復期リハビリ病棟オープン（37床）、リハビリテーション科標榜 院内託児所「ふくろうのもり」開設
	5月	訪問歯科診療受入（袋井市内の歯科医院にて）
	6月	療養病棟50床オープン
	10月	売店（グッドライフ）オープン、喫茶スペース設置
2017年	1月	上部消化管内視鏡検査開始
	9月	休日リハビリテーション提供体制加算施設基準取得（リハビリ初期加算算定開始）
	11月	退院支援部門「退院支援室」設置（退院支援加算算定開始）
2018年	2月	開院5周年院内コンサート
	2月	3階回復期リハビリ病棟フルオープン（37→50床）
	3月	MRI1.5T 更新 退院前訪問指導料算定開始
	4月	第二期指定管理期間開始
	6月	電子カルテ導入検討プロジェクト開始
	6月	リハビリテーション外来開始
	11月	袋井商業高等学校による院内コンサート開催
2019年	2月	感染管理加算2、認知症ケア加算2算定開始
	4月	訪問リハビリテーション事業開始 「在宅支援室」設置 データ提出加算1算定開始
	9月	電子カルテ（MegaOakHR）稼働
	10月	第1回市民公開講座開催
2020年	2月	医療機能評価機構による病院機能評価受審 ～新型コロナウイルス感染症の流行開始～
	7月	「在宅支援室」活動開始 医療機能評価機構による病院機能評価の認定
	10月	発熱外来開始
2021年	4月	コロナワクチン接種開始 ボトックス療法開始
2022年	5月	リハビリテーション科訪問診療開始（13日）
	7月	静岡県訪問看護出向事業に参画
	10月	宮本恒彦院長、名誉院長就任 林 泰広院長、病院長就任 耳鼻咽喉科標榜
2023年	4月	第三期指定管理期間開始
	6月	特定看護師の活動開始 特定行為研修 実習受け入れ開始（気管カニューレ交換）
	7月	「ふくろい 地域リハビリテーションをはぐくむ会」の発足
	11月	リハビリテーションマネジメント加算算定開始
2024年	2月	静岡県版看護業務効率化アワード2023最優秀賞受賞 ふくけん！健診に参画（MRI・CT撮影に協力）
	3月	コロナワクチン集団接種の終了 累計48,933回（290日） 市民公開講座開催（3病院合同開催）
	6月	特定行為研修 実習受け入れ開始（創傷処置関連） 第1回業務改善活動報告会の開催
	7月	『お仕事リサーチ～卒業したら病院で働くという選択』 および『夏のナース体験（聖隷クリストファー大学共催）』の初開催
	9月	病院理念・基本方針の改定
	11月	感染管理特定認定看護師の誕生
	12月	非常用発電機の更新
2025年	2月	回復期リハビリテーション病棟入院料1算定開始 特定行為研修 実習受け入れ開始（共通科目）
	3月	エレベーター1基の更新

聖隷袋井市民病院

当院はリハビリテーションを中心とした医療や慢性期医療を提供し、地域の急性期病院、診療所、介護施設などとの連携を通して地域共生社会の一翼を担っている。袋井市から指定管理を受託し12年目となる2024年度は、職員が互いの専門性を尊重しながら質改善活動をおこなう『共感力と協働』をキーワードとし邁進する。

【施設理念】

『私たちは、患者と同じ視線を持ち、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

【経営方針】

1. 地域ニーズに対応した安心・安全で質の高い医療サービスの提供
2. 急性期病院・地域診療所との懸け橋となる連携体制の構築
3. 在宅復帰や療養施設への入所を支援し、地域全体として切れ目のない医療の提供
4. 安定した経営基盤の確立
5. 働きがいのある職場づくりと人材育成

【事業・運営計画】 キーワード： 共感力と協働

1. 安全で質の高い医療サービスの提供
 - (ア)多職種で取り組む質改善活動の推進
 - ① 認知症患者の適切な医療評価や認知症ケアの質向上
 - ② 終末期患者への緩和医療や看取りケアの質向上
 - ③ 利用者の利便性・満足度の向上
 - (イ)多職種による安全な医療サービスの提供
 - ① 医療安全体制の確立と実践
 - ② 院内感染管理体制の強化と実践
 - (ウ)地域における特色あるリハビリテーション医療の充実
 - ① 先進機器の活用を含めた先駆的なリハビリテーションの提供
 - ② 摂食えんげ障害への支援の充実
 - ③ 高次脳機能障害への支援の充実
2. 地域共生社会への貢献
 - (ア)退院後生活を見据えた支援体制の強化
 - ① 退院支援・調整機能の向上
 - ② 訪問診療のさらなる発展
 - ③ 訪問リハビリテーションの拡充
 - (イ)後方支援病院としての機能の強化
 - ① 急性期病院との密な情報交換の実施
 - (ウ)ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の概念を基にした意思決定の支援
 - ① 職員と市民の認知度向上に向けた取り組みと ACP の実践

3. 人材の確保・育成の推進

(ア) 人材の確保と育成

- ① 採用困難職種の採用強化
- ② 看護補助者教育体制の充実

(イ) 専門性向上の支援

- ① 認定資格等の取得促進
- ② 資格取得後の活用体制の構築

4. ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進

(ア) 業務効率化の推進と労働環境の整備

- ① 時間外労働の低減につながる業務改善
- ② 健康施策の実施

(イ) 両立支援制度の普及啓発、活用

5. 経営基盤の安定化

(ア) 病床稼働の安定化

- ① 柔軟なベッドコントロール
- ② 情報発信力の強化

(イ) 回復期リハビリテーション病棟施設基準の上位取得

(ウ) 災害対策の強化

- ① 発災から 72 時間に取り組むべき行動の可視化と対応の強化

6. 地域における公益的な取り組み

(ア) 袋井市の介護予防・日常生活支援総合事業への参画と提案

(イ) 袋井市版 ACP「こころのノート」普及啓発活動

(ウ) 認知症初期集中支援活動

【数値指標】

サービス活動収益	1,759,740 千円	常勤換算職員数	203.5 名
	患者数	単価	病床稼働率
外来	46 人／日	8,200 円	-
入院	135 人／日	29,100 円	90%
再掲（回復期）	46 人／日	36,880 円	92%
（一般）	42 人／日	28,000 円	84%
（療養）	47 人／日	22,460 円	94%
	利用回数	単価	
訪問リハビリテーション	949 件／月	3,370 円	

聖隷袋井市民病院

2024 年度、袋井市から指定管理を受託し 12 年目であり、利用者の尊厳や権利を守りながら医療の質を向上させることを目的として「共感力と協働」をキーワードとして取り組んだ。開設当初からの成長や時代の変化を踏まえ病院理念や基本方針を改定したり、利用者向けには「患者の権利と役割」を平易に見直したりした。振り返りながら新たな一步を踏み出した 1 年であった。

【病院理念】 2024 年 9 月改定

『私たちは、利用者の視線に寄り添い、地域に信頼される病院を目指して歩み続けます』

【基本方針】

1. 患者の権利を尊重した、良質な医療を提供します
2. 医療施設や介護事業所、行政と連携し、切れ目のない支援をします
3. 資源を最大限に活用した健全経営を確立します
4. 職員はお互いを尊重し合い、心理的安全性の高い職場をつくります
5. 職員は自らの専門性を高めるとともに、病院として地域に貢献できる医療人の育成に努めます

【事業・運営計画】 キーワード： 共感力と協働

1. 安全で質の高い医療サービスの提供

- (エ) 多職種で取り組む質改善活動の推進：認知症患者に生活情報を聴取しレクリエーションやデイケア等に活用した。終末期患者への緩和医療やケアについて、学びを深め、カンファレンスを開催したり緩和リハビリテーションの評価指標を作成したりした。
- (オ) 多職種による安全な医療サービスの提供：医療安全管理や感染管理を継続した。
- (カ) 地域における特色あるリハビリテーション医療の充実：回復期病棟では、リハビリ効果を高めるため、対象患者に対し自主訓練を推進（64%実施）した。摂食嚥下機能検査は、造影前年比 110%、内視鏡 150% となり、必要な患者に速やかに提供できた。高次脳機能障害に対しては、事業所や家族会を招いた研修を 2 回開催し、職員の認識を高めた。

2. 地域共生社会への貢献

- (ウ) 退院後生活を見据えた支援体制の強化：2 年目となる「ふくろい地域リハビリテーションをはぐくむ会」は、年 2 回の開催を通じて院内外多職種の互いの専門性の理解を深めた。訪問診療ではボツリヌス療法を実施、訪問リハビリテーションでは対象地域を拡大し、より利用されやすい体制に変更したことにより 999 回/月（前年 949 回）となった。
- (エ) 後方支援病院としての機能の強化：急性期病院に、地域連携室職員とともに医師が訪問（8 回）したことにより、当院の専門性や役割の認知が高まった。
- (エ) ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の概念を基にした意思決定の支援：職員の認知を高める研修会を継続、市民を対象とした院外講座に 8 回出向いた。また、院外講師を務められる職員を 4 名増やすことができた。市職員からもわかりやすいと評価されている。

3. 人材の確保・育成の推進

(イ)人材の確保と育成：採用について、新たに高校2校、専門学校や大学は5校に訪問した。

また、病院で働く専門職を知る“お仕事リサーチ”や“ナース体験”の実施など、中高生向けのイベントを開始した。看護補助者教育については、ラダーの活用100%、協働推進のための看護師向け研修の受講も100%とした。

(ウ)専門性向上の支援：職員のやりがいを高めるための認定資格等の取得促進や取得後の活躍を支援した。感染管理認定看護師1名、特定看護師（感染、創傷管理）2名取得。

4. ディーセント・ワーク（人生と両立できる働きがいのある仕事）の推進

(ウ)業務効率化の推進と労働環境の整備：職場ごとに効率化に取り組んだ。11月より全職員を対象とした腰痛予防体操を導入。腰痛アンケートでは“問題なし”54%（目標57%）。

(エ)両立支援制度の普及啓発、活用：男性職員への育休取得の情報提供100%、介護休暇取得のための手順書を完成させた。育児・介護・治療を理由にした離職は0であった。

5. 経営基盤の安定化

(エ)病床稼働の安定化：回復期45.5、一般42.3、療養45.1床/日（目標46、45、47床）。院内外のコロナやインフルエンザ感染による影響も受けたが、3月には過去最高の95.5%の稼働となった。病棟課長や連携室が全病床を活用する運用が定着した。

(オ)回復期リハビリテーション病棟施設基準の上位取得：2月より算定開始。新規入院患者の重症度割合を高める取り組みを職員一丸となって行った成果である。

(カ)災害対策の強化：BCPを更新。発災から72時間取るべき行動を可視化したため、2025年度の訓練へと繋げていく。

6. 地域における公益的な取り組み：袋井市の介護予防・日常生活支援総合事業への参画を継続しつつ、新たな評価方法を提案し運用を開始した。「こころのノート」普及啓発には、職員が地域に出向き8回講師を務めた。認知症初期集中支援活動では、袋井市が対応に苦慮する住民宅への訪問に職員も参画する取り組みを開始した。

【数値実績】

項 目	予 算	実 績	対 予 算	対 前 年
外 来 患者数	46 名	51 名	110.8%	110.8%
外 来 単 価	8,190 円	7,746 円	94.5%	92.7%
入 院 患者数	135 名	133 名	98.5%	99.2%
入 院 単 価	29,149 円	28,913 円	99.1%	104.3%
病 床 稼働率	90.0%	88.6%	98.5%	99.2%
職 員 数	204 名	195 名	95.5%	102.0%

〈訪問リハビリテーション〉

項 目	予 算	実 績	対予算	対前年
利用回数（月平均）	949 件	999 件	105.2%	113.7%
単価	3,372 円	3,316 円	98.3%	99.9%

病院概要（2025 年 4 月 1 日現在）

- 開設者 袋井市長
- 病院名 袋井市立聖隷袋井市民病院
- 指定管理者 社会福祉法人聖隷福祉事業団
- 所在地 〒437-0061
静岡県袋井市久能 2515 番地の 1
TEL 0538-41-2777 FAX 0538-41-2813
- 開院日 2013 年 5 月 1 日
- 理事長 青木善治
- 病院長 林泰広
- 看護部長 春日三千代
- 事務長 梶間弘美
- 病床数 150 床
- 職員数 216.4 名 ※常勤換算
- 認定施設 保険医療機関
生活保護法指定医療機関
労災保険指定医療機関
結核予防法指定医療機関
被爆者一般疾病医療機関
指定自立支援医療機関（精神通院医療）
難病法に基づく指定医療機関
特定疾患治療研究事業
指定小児慢性特定疾病指定医療機関
- 標榜科目 耳鼻咽喉科、脳神経外科、整形外科、内科、リハビリテーション科
- 病棟構成

名称	病床数	入院料
3 階病棟	50	回復期リハビリテーション病棟入院料 1
4 階病棟	50	地域一般入院料 3
5 階病棟	50	療養病棟入院料 1
合計	150	

■ 施設基準

- ー基本診療料 看護補助加算 1、看護配置加算、療養環境加算、療養病棟療養環境加算 1、夜間看護加算（療養病棟入院基本料の注 13）、入退院支援加算 2、データ提出加算 1・3、診療記録管理体制加算 3、感染対策向上加算 3、連携強化加算、認知症ケア加算 3、医療 DX 推進体制整備加算 4、医療安全対策加算 2、医療安全対策地域連携加算 2、栄養サポートチーム加算
- ー特掲診療料 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）、薬剤管理指導料、検体検査管理加算（Ⅱ）、CT 撮影（16 列以上、64 列未満マルチスライス CT）、MRI 撮影（1.5 テスラ以上 3 テスラ未満）、二次性骨折予防継続管理料 2・3
- ーその他 選定療養、入院時食事療養（Ⅰ）、入院時生活療養費（Ⅰ）

■ 職員状況

※休職者含む

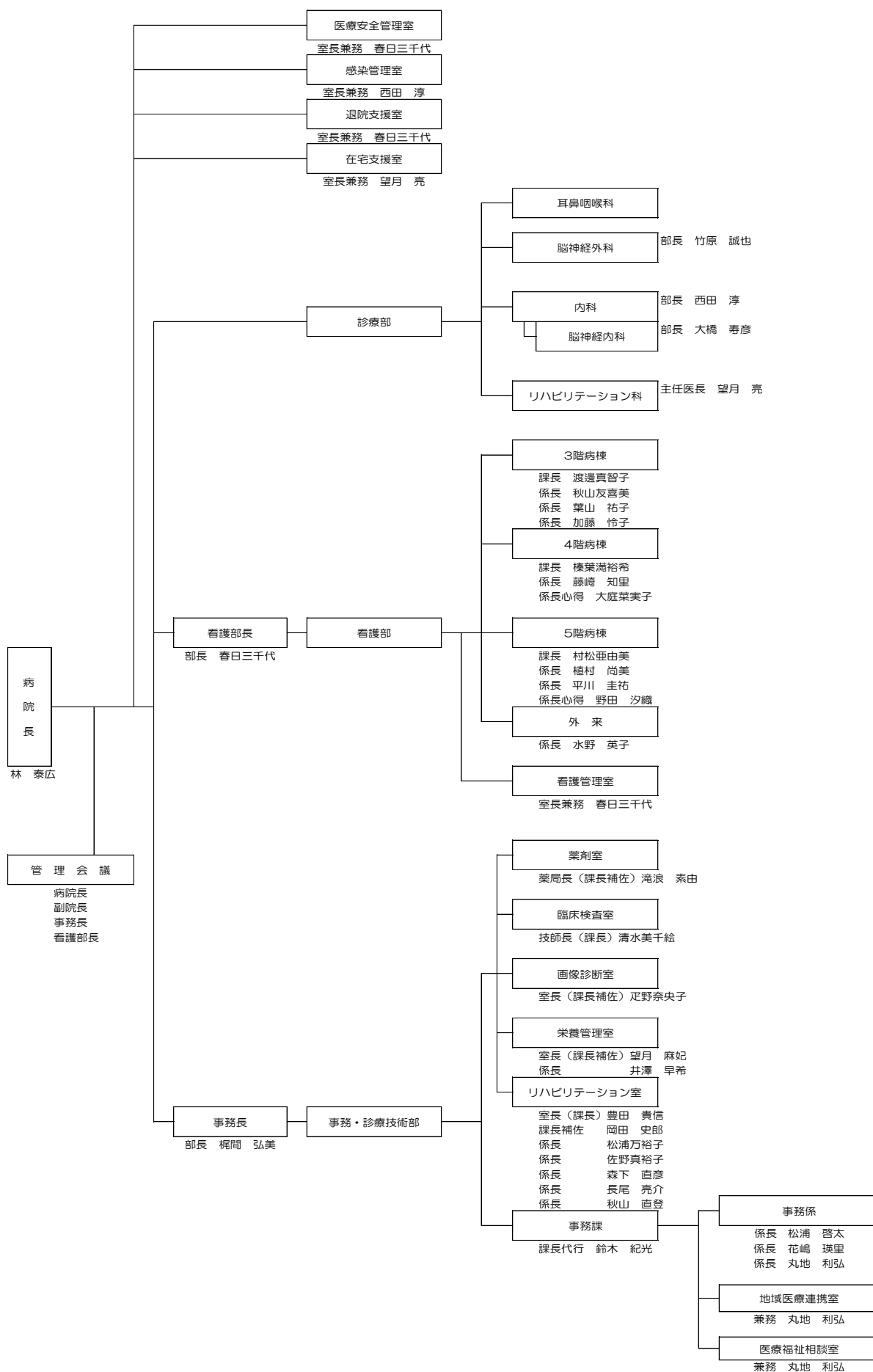
部門名	職能別内訳	区分		合計
		常勤	非常勤	
医 局	医 師	3	4.1	7.1
看 護 部	看 護 師	75	5.4	80.4
	准 看 護 師	3		3
	助 産 師	1		1
	介 護 福 祉 士	12	1.3	13.3
	看 護 助 手	11	1.5	12.5
	事 務 職	4	0.6	4.6
臨 床 検 査 室	臨 床 検 査 技 師	2		2
画 像 診 断 室	放 射 線 技 師	2	0.6	2.6
薬 剤 室	薬 剤 師	4		4
リ ハ ビ リ テ ー シ ョ ン 室	理 学 療 法 士	31		31
	作 業 療 法 士	24		24
	言 語 聴 覚 士	5		5
	歯 科 衛 生 士	1		1
	事 務 職	1	0.4	1.4
栄 養 管 理 室	管 理 栄 養 士	3		3
事 務 課	事 務 員	18	2.5	20.5
合 計		200	16.4	216.4

■ 主な器械備品

(太文字：新規購入 or 更新)

機器名	数	メーカー名	機種名
1.5 テスラ MRI	1	フィリップス	Prodiva CX 1.5T
64 列マルチスライス CT	1	GE ヘルスケアジャパン	Optima CT 660Pro Advance
FPD システム	3	コニカミノルタ	CS-7・FPD
X 線 TV システム	1	キャノンメディカルシステムズ	ZEXIRA
C-アーム	1	フィリップス	BV Pulsera
骨密度測定装置	1	GE ヘルスケアジャパン	PRODIGY
移動式 X 線撮影装置	1	島津製作所	MobileArt Evolution
超音波診断装置	3	GE ヘルスケアジャパン	LOGIQ S7、LOGIQ P6、LOGIQ P10
心電計	3	日本光電	ECG-1550×2、ECG-1450
脳波計	1	フクダ電子	COMET CM-E
生化学分析装置	1	キャノンメディカルシステムズ	TBA c-8000
多項目自動血球分析装置	1	アボットジャパン	CELL-DYN Ruby
血液ガス分析装置	1	シスメックス	OPTI CCA-TS
全自動血液凝固測定装置	1	シスメックス	CA-650
全自動尿分析装置	1	アークレイ	AX-4061
自動グリコヘモグロビン分析計	1	TOSOH	G11 HLC-723
肺機能検査装置	1	チェスト	チェストグラフ HI-105
聴力計	2	RION	AA-57、 AA-M1B
視力計	1	TOPCON	TOPCON SS-3
アンモニア測定装置	1	富士フィルム	NX10N
自動赤血球沈降速度測定機	1	テクノメディカ	ESR-6000
免疫分析装置	1	TOSOH	AIA-360

聖隷袋井市民病院 組織図



2024年度下期 聖隷駿井市民病院 会議・各種委員会名簿

管理会議 運営委員会等 ◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

区分	会議名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
	管理会議	第3木曜日 15:00～ 第2木曜日(予備)	毎月	◎林泰広 ■竹原誠也 ■西田淳 ■大橋寿彦 ■望月亮 ■宮本恒彦	春日三千代 ■渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美	■豊田貴信 ■滝浪素由 ■清水美千絵 ■足野奈央子 ■望月麻紀	梶間弘美 ▲松井 克章 ■鈴木紀光 ■松浦啓太	
	職場 代表者会議	第3木曜日 15:00～	毎月	◎林泰広 竹原誠也 西田淳 大橋寿彦 望月亮 宮本恒彦	春日三千代 渡邊真智子 鈴木寿子 松尾はる美	豊田貴信 滝浪素由 清水美千絵 足野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 ▲松井 克章	
	診療部会議	第3木曜日 15:00～	必要時	◎林泰広 竹原誠也 西田淳 大橋寿彦 望月亮 宮本恒彦			梶間弘美 ▲松井 克章	

委員会・会議

I 安全 ◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

	委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
○	医療安全管理委員会 (輸血療法委員会)	第3木曜日 15:00～	毎月	◎林泰広 大橋寿彦	●春日三千代(医療安全管理者) 渡邊真智子 鈴木寿子 松尾はる美 水野英子	豊田貴信 滝浪素由 清水美千絵 望月麻紀 ▲足野奈央子 (専任安全管理者)	梶間弘美 内山安寿佳	
◎	医療事故調査委員会		医療安全管理者の招集時	◎林泰広 大橋寿彦	●春日三千代 ■渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美	▲足野奈央子	●梶間弘美 松井克章	
◎	医療ガス安全管理委員会	第3木曜日 15:00～	年1～2回	◎林泰広	春日三千代	▲足野奈央子 滝浪素由	●梶間弘美 松浦啓太	木下志美 (駿井市職員) 田中孝一 (施設設備担当者)
◎	防災委員会	第3木曜日 15:00～	毎月	◎林泰広(管理権限者)	渡邊真智子	▲豊田貴信 藤田 智大 滝浪素由 清水美千絵 足野奈央子 望月麻紀	●梶間弘美(防火管理者) 松浦啓太 花嶋瑛里	
	安全運転委員会		年1～2回		松尾はる美	●足野奈央子	梶間弘美 ◎松井 克章(安全運転管理者) ▲増田俊介	

II 質の保障

◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

	委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
○	診療記録管理委員会	第3木曜日 15:00～	年3回	◎林泰広	春日三千代 ■渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美	豊田貴信 滝浪素由 清水美千絵 足野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 ▲村井里美	
○	コーディング委員会		年2回	◎林泰広	春日三千代	滝浪素由	▲村井里美	
	情報セキュリティ管理委員会	第3木曜日 15:00～	年1～2回	◎林泰広	春日三千代 ■渡邊真智子 ■鈴木寿子 ■松尾はる美	豊田貴信 滝浪素由 清水美千絵 足野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 ▲鈴木紀光	
○	役割分担推進委員会	第3木曜日 16:00～	年3回	◎林泰広	●春日三千代 松尾はる美	豊田貴信 滝浪素由 清水美千絵 足野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 ▲鈴木紀光	
	クリニカルパス委員会		奇数月	◎望月亮	●渡邊真智子	森下直彦 滝浪素由 清水美千絵 足野奈央子 望月麻紀	増渚友紀 ▲福島順子	
	倫理委員会	第3月曜日 16:00～	年4回	◎西田淳 宮本恒彦	春日三千代 渡邊真智子	豊田貴信	梶間弘美 ▲鈴木紀光 内山安寿佳	長谷川修一 (駿井市職員)

III 健康

◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

	委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
○	院内感染対策委員会	第3木曜日 15:00～	毎月	林泰広 竹原誠也 ◎西田淳 大橋寿彦 望月亮	春日三千代 渡邊真智子 鈴木寿子 松尾はる美 植村尚美	豊田貴信 滝浪素由 ■清水美千絵 足野奈央子 望月麻紀	梶間弘美 松浦啓太	
◎	衛生委員会	第3木曜日 15:00～	毎月	◎林泰広 西田淳 西尾信一郎(産業医)	●春日三千代	豊田貴信 滝浪素由(衛生管理者)	梶間弘美 ▲松井克章 金原真有美	

IV 治療等

◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

	委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
◎	家事委員会	第3木曜日 15:00～	毎月	◎林泰広 竹原誠也 西田淳 大橋寿彦 望月亮	●渡邊真智子	▲滝浪素由(医薬品安全管理責任者)	増渚友紀	
○	臨床検査適正委員会		毎月	◎林泰広 西田淳	●松尾はる美	▲清水美千絵	溝口眞琴	
	栄養委員会	第3木曜日 14:45～	毎月	◎竹原 誠也	●渡邊真智子 鈴木寿子 ■松尾はる美	▲望月麻紀 秋山直登 ■委託責任者(栄養士)		
○	褥瘡対策委員会	第3木曜日 15:00～	毎月	◎林泰広	●渡邊真智子 ▲鈴木寿子 松尾はる美	滝浪素由 鈴木翔 望月麻紀 清水美千絵		池羽香菜
	特定行為管理委員会	第3木曜日 15:00～	奇数月	◎林泰広 宮本恒彦 西田淳	春日三千代 ▲渡邊真智子 鈴木寿子	滝浪素由 足野奈央子		池羽香菜

V 広報、その他

◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

	委員会名	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
	広報委員会		年4回		湊友和	◎松浦万裕子 ▲江塚和可子 板倉陽香 鈴木 健人	梶間弘美 吉澤文美 ●竹内沙弥果	
	利用者満足度向上委員会	第2木曜日 16:30～	年4回		原川歩 岡本かおり 竹内晴貴 佐野満理	鈴木健人 江塚和可子	◎松井克章 ▲黒崎歩実果	
	研修運営委員会		年1～2回	西田淳	◎春日三千代 渡邊真智子 鈴木寿子 松尾はる美	岡田史郎 滝浪素由 ●清水美千絵	▲花嶋瑛里 松井 克章	

VI 運営会議

◎委員長、●副委員長、▲事務局 ■陪席

	会議名等	開催日時	開催頻度	診療部	看護部	医療技術	事務	外部委員
	回復期リハビリテーション病棟運営会議	第4水曜日	月1回	◎望月亮	渡邊真智子	豊田貴信 ▲森下直彦 松浦万裕子	鈴木紀光、内山安寿佳	
	外来運営会議	第3木曜日委員会終了後	年3回	林泰広 西田淳	◎水野英子 鈴木佳野 春日三千代	鈴木翔 阿部篤子 江塚和可子 ●滝浪素由	増田俊介、▲花嶋瑛里	
	在宅支援室会議	第3木曜日 16:00～	年4回	◎望月亮	春日三千代、松尾はる美、水野英子	豊田貴信 佐野真裕子 橋内ひとみ	梶間弘美 ▲平岩佳奈美 内山安寿佳 増渚友紀 溝口眞琴	

◎法的必置 ○施設基準(診療報酬ほか)

2024年10月1日付で上記の通り委嘱します。病院長 林 泰広

【医療安全管理委員会（輸血療法含む）】

開催実績 12 回

審議・検討内容

- ・IA 集計と事例報告
- ・ハイリスク事例検討と対策立案
- ・MRM の内容確認、改訂
- ・輸血療法の実績報告

目標

- ・医療安全加算 2 申請
- ・迅速な対応ができる医療安全管理室運営
- ・ヒヤリハット（Lv.0）報告数 2 倍（前年度 43 件）
- ・N R 医療安全委員会と連携し、重点 I A 削減を図る

【重点 I A】

- ・患者誤認事例（Lv.1 以上）0
- ・医療者要因の薬剤、転倒事例の削減

活動報告

- ・医療安全管理加算 2 2025 年 1 月算定開始
医療安全地域連携加算 2 同上
- ・第 1 回 医療安全講習会 7 月～9 月
- ・第 2 回 医療安全講習会 2024 年 12 月
- ・医療安全推進週間 11 月
各職場の患者誤認防止対策 実施状況確認
- ・中東遠医療安全地域連携病院加盟
2025 年 1 月 27 日評価ラウンド受審
- ・MRM 改訂
組織図・規約変更
個人情報を含むものの誤発送発生時の対応 追加
輸血手順 改訂
自立度判定の運用 追加
高齢者虐待発見時の初期対応 追加
麻薬運用マニュアル 改訂
救急カート・アナフィラキシーバッグの運用 改訂
FAX 送信マニュアル 追加
救急カート薬剤変更
- ・BLS 講習会 職場毎実施
- ・リスクマネージャー講習会 2024 年 3 月 27 日

【医療ガス安全管理委員会】

開催実績 1 回

審議・検討内容

- ・医療ガス設備、点検の状況確認
- ・医療ガス安全使用のための職員教育

目標

- ・医療ガスの安定供給と職員が安全に使用できる環境整備を行う

活動報告

- ・ガス供給設備点検報告
- ・配管工事実施報告
- ・医療ガス従事者講習 2025 年 3 月 1 日～25 日

【防災委員会】

開催実績 6 回

審議・検討内容

- ・袋井市との協働による消防計画に関する事項
- ・袋井市が実施する消防・避難設備点検結果および維持管理に係る事項
- ・消防計画に基づく訓練の実施
- ・防災マニュアルおよび BCP（事業継続計画）に関する事項
- ・安否確認システムに関する事項
- ・その他防災・減災に関する事項

方針

訓練や職場防災活動を通して、職員自らが考えて行動できる防災体制を構築する

目標

- ①CSCATTT の概念を基盤とした防災訓練の実施
- ②発災後 72 時間以内の行動計画を具体化する
- ③災害対策本部の情報評価の確立

活動報告

- ・非常連絡網訓練（ANPIC：返信率 89.5%）2024.6.14
- ・職場防災ラウンド（委員 4 名）2024.6.25
- ・全職員対象 消火器、消火栓、搬送訓練
第 1 回 2024.7.12（29 名）第 2 回 2024.7.24（25 名）
- ・管理者 非常連絡網配信訓練（実施率 100%）8 月
- ・火災訓練（机上、FIG）2024.10.3
- ・地震防災訓練 2025.2.6
- ・管理者用 非常連絡網更新
- ・災害コンテナの備品調査
- ・備蓄倉庫の整備
- ・BCP 改定、マニュアル整備（大規模災害マニュアル）
- ・マニュアル差し替え（目次、防災規約、防火対象物自衛消防隊編成表、大規模災害マニュアル）
- ・災害対策本部アクションカード、伝令シート修正

【安全運転委員会】

開催実績 4 回（デスクネット開催）

審議・検討内容

- ・安全運転管理推進事業所の指定に関する報告
- ・交通安全運動に関する広報 および 活動の検討
- ・安全運転管理：車両届・業務用車両使用者申請

- ・安全運転講習会の開催

目標

- ・安全運転管理推進事業所としての意識を持って安全運転に努める
- ・研修・活動を通して安全運転への意識を高める

活動報告

- ・K-MIX ラジオへのコメントを収録
- ・セーフティドライバークンテスト地区大会 2 名参加
- ・「K-MIX チャレンジラリー92」へ 15 チームが参加達成チームから 1 チームが受賞
- ・車両届の年度更新、業務用車両使用者申請の更新
- ・危険予知トレーニングの実施（夏・冬 2 回）

【診療記録管理委員会】

開催実績 4 回

審議・検討内容

- ・診療録管理および診療録に関する事項の検討を目的とする

目標

- ・診療録の管理運営に関する課題の検討
- ・年 3 回以上の委員会開催
- ・診療記録の監査：質的点検の検討

活動報告

- ・質的点検：監査基準の作成、手順の作成
- ・質的点検 3 症例実施、報告、振り返り

【コーディング委員会】

開催実績 2 回（うち デスクネッツ開催 2 回）

審議・検討内容

- ・適切なコーディングを行う体制を確保する

目標

- ・委員会開催年 2 回以上

活動報告

- ・入院病名 ICD-10 の報告
- ・ICD-10 に表記された詳細不明な病名の件数報告

【情報セキュリティ管理委員会】

開催実績 4 回

審議・検討内容

- ・個人情報保護、情報セキュリティに関する規定の策定や運用検討をおこなう
- ・個人情報の漏洩または個人情報の漏洩する危険があった事例、及び情報セキュリティに関する情報収集及び分析

目標

- ・IT-BCP の策定
- ・個人情報保護、情報セキュリティに関する定期的な勉強会（研修・訓練）の実施

活動報告

- ・個人情報に関する事故発生時の運用見直し
 - FAX 誤送信マニュアルの作成
- ・勉強会（研修・訓練）の実施
 - メール訓練
 - 情報セキュリティ講演会
- ・電子カルテ更新 PJ の情報共有

【役割分担推進委員会】

開催実績 2 回

審議・検討内容

- ・医師、看護師等の専門職種が専門性を必要とする業務に専念することにより、効率的な業務運営がなされるよう、適切な人員配置の在り方や、適切な役割分担をすることを目的とする。

目標

- ・看護職員の煩雑な業務を再考し負担軽減を推進する
- ・看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画の策定、評価

活動報告

- ・看護職員の負担の軽減及び処遇の改善に資する計画の策定、評価
- ・看護職員の行っている事務的な業務を他職種が担う体制（タスク・シフト）を検討
- ・介護中の看護職員に対する配慮（夜勤負担等の軽減）を検討
- ・妊娠・子育て中の看護職員に対する配慮（夜勤負担等の軽減）を検討
- ・院内保育所の継続及び新たな流行性感染症が発生した場合の院内学童の体制の整備

【クリニカルパス委員会】

開催実績 6 回（+小部会 1 回）

審議・検討内容

- ・クリニカルパス導入の推進
- ・クリニカルパスの評価と管理（バリエーション集計及びデータクリーニング）
- ・クリニカルパスの周知及び指導

目標

- ・大腿骨骨折院内パス Ver 4 への改訂による運用の課題と解決、業務簡素化の評価

活動報告

- ・大腿骨骨折院内パス退院者のバリエーション集計及びデータクリーニング
- ・大腿骨骨折院内パス Ver 4 の運用検討および資料の修正
- ・地域連携パス及び院内パスの利用率集計
- ・小部会（偶数月）については、委員会にて開催必要と判断された場合に開催するよう変更

【倫理委員会】

開催実績 6 回

審議・検討内容

- ・聖隷袋井市民病院の様々な活動における倫理的な課題及び諸問題等に対して、その倫理性を審議することを目的とする

目標

- ・倫理的課題に関する病院方針の決定
- ・臨床の場面で生じる個別具体的な倫理的課題の検討
- ・臨床研究における倫理的配慮の審議
- ・倫理コンサルテーションの実施

活動報告

- ・臨床研究審査の実施（7 件）
- ・患者の権利と義務を見直し、『患者の権利と役割』を策定

【院内感染対策委員会】

開催実績 12 回

審議・検討内容

- ・院内における微生物の感染防止策
- ・細菌検査状況報告
- ・ICT による感染対策ラウンド報告
- ・カテーテル使用者情報報告
- ・特定抗菌薬使用状況報告

目標

- ・院内各部署と連携し院内感染予防に取り組む
- ・年 2 回院内感染対策に関する研修会を開催
- ・手洗いチェック実施
- ・院内感染対策マニュアル改訂

活動報告

- ・毎月実施：細菌検査状況報告、感染対策ラウンド報告、カテーテル使用者情報報告、特定抗菌薬使用状況報告（不適切使用ゼロ）
- ・アンチバイオグラムの作成、共有
- ・研修会開催（職員参加必須研修 2 回）
- ・手洗いチェック実施、フィードバック
- ・新型コロナウイルス感染症対応文書改訂

- ・院内感染対策マニュアル改訂

IV-1. 針刺し等血液・体液汚染事故対応マニュアル

III-10. ころみ自動調理サーバー使用上の感染管理

- ・带状疱疹ワクチン接種の運用検討
- ・インフルエンザワクチン、流行性感染症ワクチン接種計画、実施
- ・感染管理専任看護師による職員教育、相談対応
- ・中東遠総合医療センター ICN による巡視と指摘改善
- ・CRE（カルバペネム耐性腸内細菌目細菌）に関する情報共有とセミナーの案内

【衛生委員会】

開催実績 12 回

審議・検討内容

- ・職員の健康障害の防止に関すること
- ・職員の健康の保持増進に関すること
- ・長時間にわたる労働による職員の健康障害の防止に関すること
- ・精神的健康の保持増進に関すること

目標

- ・定期健診の受診率 100%
- ・ストレスチェックの受検率 100%

活動報告

- ・長時間勤務者の委員会報告
- ・産業医の院内巡視活動
- ・衛生管理者の職場巡視活動
- ・定期健康診断の実施、労働基準監督署への届出
- ・腰痛検診の実施、労働基準監督署への届出
- ・ストレスチェックの実施、労働基準監督署への届出
- ・放射線業務従事者被爆線量のチェック
- ・化学物質（ホルムアルデヒド）リスクアセスメント
- ・労災、エビネットの発生件数の管理と対策検討
- ・予防接種（麻しん、風疹、水痘、流行性耳下腺炎）の接種歴管理と接種の推進

【薬事委員会】

開催実績 12 回

審議・検討内容

- ・新規採用薬の検討：正式採用 2 剤、院外限定 2 剤の承認
- ・中止薬剤の検討：1 剤の削除
- ・副作用報告書の内容よりオーダー規制の報告、検討

目標

- ・採用医薬品の管理を徹底
- ・DI ニュースを毎月 1 回発行し、医薬品・医療機器の最新情報を収集、提供を行う

- ・副作用報告内容から、被疑薬の再投与防止に努める
- 活動報告**
- ・7 薬剤を後発品へ切り替え
 - ・副作用症例の検討、オーダー規制や副作用カードの発行
 - ・供給不安定薬について薬剤の切り替え等検討

【臨床検査適正委員会】

開催実績 6 回（うち デスクネッツ開催 3 回）

審議・検討内容

- ・臨床検査室の適正、円滑な運営に関する審議、検討
- ・臨床検査の質の向上に関する審議、検討

目標

- ・精度保証の向上
- ・診療支援の向上

活動報告

- ・T-SPOT 検査委託先変更の報告
- ・標準純音聴力検査（2024 年 5 月開始）の運用検討
- ・電子カルテ検査依頼画面の整備
- ・外部精度管理調査の結果報告
 - 静岡県臨床検査精度管理調査 5 月受審
 - 日臨技臨床検査精度管理調査 6 月受審
 - 医師会臨床検査精度管理調査 9 月受審
- ・生化学分析装置、血液分析装置保守点検に伴う検体提出制限の案内
- ・頸動脈超音波検査における計測方法変更の報告
- ・外部委託業者（BML）の検体回収時間変更の報告
- ・D ダイマー高値時における臨床検査室からの情報発信運用の見直し

【栄養委員会】

開催実績 6 回

審議・検討内容

- ・入院時食事療養の改善・向上を図る
- ・濃厚流動食・検査食・栄養補助食品導入と削除検討
- ・各部署の要望事項のとりまとめ、検討

目標

- ・地産地消献立：2 回実施、郷土料理：2 回実施含め、毎月 1 回行事食/企画の実施
- ・職員食アンケート/患者嗜好調査を実施し、食事満足度の向上に繋げる
- ・残食の多い献立の見直し
- ・施設対抗料理対決：入賞
- ・栄養補助食品 採用製品の充実、売店取り扱い製品の見直し検討

- ・栄養部門衛生監視により、衛生管理の向上に繋げる
- ・栄養管理室 BCP 作成
- ・NST 加算：算定に向けた運用検討、回診再開

活動報告

- ・毎月 1 回行事食/企画の実施（地産地消献立：初夏・秋の 2 回、郷土料理：三重県・フランスの 2 回）
- ・職員食アンケート：7.9 点/10 点満点・患者嗜好調査：7.6 点/10 点満点
- ・残食の多い 11 料理、高価格の 2 料理見直しの他、日々の献立見直し 50 料理以上、新料理 5 つ導入
- ・施設対抗料理対決 6 位入賞/17 施設
- ・栄養補助食品の変更、追加（ブリックゼリー、ごはんにあうソース卵・梅採用）
- ・医師、ST 要望より軟めし導入と消化移行食の見直し
- ・栄養部門衛生監視：○が 93.6%
- ・栄養管理計画書に GLIM 基準による低栄養診断導入
- ・NST 回診 8～10 月試験運用（2 回/月）、11 月～算定開始 92 件/年
- ・栄養情報連携料 11 月～算定開始 62 件/年

【褥瘡対策委員会】

開催実績 12 回（うち デスクネッツ開催 2 回）

審議・検討内容

- ・院内の褥瘡件数の把握
- ・院内のスキンテア発生状況の分析
- ・院内に向けて褥瘡対策の啓発の実施

目標

- ・院内発生の褥瘡件数とスキンテアが昨年度より減少する

活動報告

- ・院内褥瘡発生 12 件/年（前年 36 件）、持ち込み褥瘡 89 件（前年 74 件）
- ・褥瘡発生率 0.8%（前年 2.4 件）
- ・褥瘡回診 50 回/年 延べ患者数 667 名
- ・スキンテア件数 175 件（前年 183 件）
- ・新人職員対象勉強会開催
- ・褥瘡ケア推進ナースの設置
- ・VAC 療法導入、勉強会開催

【特定行為管理委員会】

開催実績 2回

審議・検討内容

- ・特定行為業務基準の作成と改訂
- ・特定看護師が介入した症例の報告
- ・手順書の発行の方法や特定看護師の実践内容の説明

目標

- ・特定看護師が安全かつ円滑に実践できるよう運用を検討し、情報を共有する

活動報告

- ・特定看護師増員の報告、特定行為の区分と活動内容の周知
- ・新たな特定行為区分の手順書の整備
- ・特定行為業務基準の改訂
- ・特定看護師の活動の紹介や特定看護師の育成を目的とした特定看護師座談会を各職場に出向き開催
- ・静岡県看護協会が主催する特定行為研修終了者研修会で、特定看護師が講演し実践を報告した。

【広報委員会】

開催実績 5回（うち、臨時開催1回）

審議・検討内容

- ・院外広報誌『コスモス便り』作成発行管理
- ・HP『コスモス日記』更新管理
- ・社内報「聖隷」311号『事業部最前線』記事作成
- ・広報委員会規約の更新

目標

- ・『コスモス便り』年4回（4,7,10,1月）発行
- ・HP閲覧数前年度比110%、月1回以上更新

活動報告

- ・『コスモス便り』の作成、7000枚印刷、約130施設への発送、袋井市内回覧板にて配布
- ・『コスモス便り』バックナンバーの管理（PDFをHPへアップロード、棚の整理、過剰分の廃棄）
- ・HP『コスモス日記』の月1回以上の定期更新
- ・社内報「聖隷」311号『事業部最前線』の作成
- ・広報委員会規約更新

【利用者満足度向上委員会】

開催実績 3回

審議・検討内容

- ・接遇に関する事項の審議
- ・利用者満足度調査に関する事項の審議

目標

- ・接遇研修 1回以上の開催
- ・患者満足度調査の実施

活動報告

- ・接遇研修開催：62%
- ・患者満足度調査の実施：外来：179枚（回収率100%）
入院：94枚（回収率72%）
- ・クリスマスツリー飾りつけ

【研修運営委員会】

開催実績 3回（うち デスクネット開催2回）

審議・検討内容

- ・新入職員導入研修プログラム（案）について
- ・聖隷袋井市民病院研修計画・実績シート案について

目標

- ・新入職員導入研修の準備・開催
- ・聖隷福祉事業団階層別研修の開催（取り纏め）

活動報告

- ・研修プログラムの立案
- ・資料の準備、会場設営、研修の司会・進行
- ・研修運営会議を研修運営委員会へ変更
- ・接遇のしおりの改訂
- ・医療の倫理、個人情報保護の保護、接遇、ハラスメント、虐待の防止、認知症の理解、安全運転について研修実施の呼び掛けと実績確認

新【回復期リハビリテーション病棟運営会議】

開催実績 13回

審議・検討内容

- ・病棟業務の適正化
- ・診療報酬及び経営的事項
- ・スタッフ教育/育成

目標

- ・回復期リハビリテーション病棟施設基準の上位取得
- ・病棟運営に対する運用の適正化

活動報告

- ・回復期リハビリテーション病棟入院料1算定開始
- ・GILM基準による栄養評価の実施

- ・回復期カンファレンスの運用変更
- ・回復期即日入院受け入れフローの作成・運用
- ・他病棟との柔軟なベットコントロールの実施

【外来運営会議】

開催実績 7回

審議・検討内容

- ・外来運営に関する検討

目標

- ・外来運営に対する運用の効率化・コメディカル間の情報共有

活動報告

- ・整形外科外来の予約枠拡充について
- ・带状疱疹ワクチン接種の開始に向けて
- ・生活習慣病管理料の算定に向けて
- ・新型コロナワクチン接種の運用について
- ・訪問診療導入面談について
- ・レカネマブ治療開始について
- ・発熱外来運用の変更について

以上7議題について検討し、運用につなげた。

【在宅支援室会議】

開催実績 6回

審議・検討内容

『地域住民が、自宅で最期まで（看取りまで）自分らしく生活し続けるための（QOL向上、健康寿命延長）支援をすること、またそのための人材育成および院外連携先との“チーム感”を醸成すること』を目的に掲げ、そのために必要なことを検討する。

目標

- ・切れ目のない支援とは何か明確にし、現状課題を把握する

活動報告

・在宅支援室の目的を『地域住民が、自宅で最期まで（看取りまで）自分らしく生活し続けるための（QOL向上、健康寿命延長）支援をすること、またそのための人材育成および院外連携先との“チーム感”を醸成すること』と掲げ、2024年度は上記目標を目指し、訪問診療・退院支援・訪問リハの3グループで活動した。

※詳細は、センター機能の項に記載。

多職種協働プロジェクト（PJ）活動報告

PJ 名	リーダー	メンバー	備考
認知症ケア PJ	秋山友喜美 (看護師)	・看護師： 松尾遼太 鈴木恵子 ・看護補助者： 平川圭祐 ・療法士： 鈴木明日香 ・社会福祉士： 吉澤文美 ・薬剤師： 犬飼康子 ・袋井市保健師： 吉村磨依	1 時間 /回/月
緩和・看取り PJ	村松亜由美 (看護師)	・医師： 西田淳 ・看護師：水野英子、安達わか ・看護補助者： 森諒 ・療法士：辻昌伸 ・社会福祉士： 内山安寿佳 ・薬剤師：滝浪素由	1 時間 /回/月
自分らしく生きるを 支援する PJ	鈴木 翔 (療法士)	・看護師： 荒木麻美、村松亜由美、片岡祐希、水野英子 ・療法士： 辻昌伸 ・社会福祉士： 福島順子 ・袋井市保健師： 内山ルデヤ	1 時間 /回/2 月
始めよう働き方改 革、新しい一步を踏 み出そう PJ	佐野真裕子 (療法士) 榛葉満裕希 (看護師)	・看護師： 加藤尚世、村松真由香、鈴木麻美 ・療法士： 中山祥子、鈴木琢弥、小楠知広 ・事務： 松浦啓太 ・薬剤師： 滝浪素由	1 時間 /回/3 月
無駄と不足をなくそ う PJ	後藤洸貴 (療法士)	・看護師： 渡邊真智子、野口孝美、松尾遼太 ・看護補助者： 岡本かお里、相場久美子 ・療法士： 松浦万裕子、藤田智大、金子隆成 ・事務： 松浦啓太（松井克章）	40 分/回/ 月

【認知症ケア PJ】

開催実績 8 回

目標

- ①生活情報収集用紙の活用推進
- ②認知症ケアの学習会開催（1 回/年）
- ③認知症高齢者を支える家族への支援を目的にパンフレットを作成

活動報告

- ①生活情報用紙の活用機会を増やすため、生活情報用紙活用ガイドを用いて普及を図った。各病棟でカンファレンスやレクリエーション活動企画に用いてくれている。
- ②学習会を 2 回/年開催した。「認知症とせん妄治療薬（犬飼 30 分）」「認知症症状とケアのポイント（秋山 30 分）」60 分講義を同じ内容で 2 回実施。参加総数は 41 名、実践で活用できるとの評価であったが、時間短縮の要望が多く 30～40 分で企画する必要がある。
- ③認知症高齢者を在宅でケアする家族の不安が緩和されるよう、対応方法のみでなく相談先も含めたパンフレットを作成した。運用を整え、各病棟・外来・相談室へ配布をおこなった。

【緩和・看取り PJ】

開催実績 9 回

目標

1. 院内職員が、緩和・看取りケアへの理解を深めることが出来る

- 1) 院内に向けた研修会の開催

(1)e-ラーニングの受講の推進 受講率 80%以上

(2)研修会の開催 3 回/年実施

2. 緩和ケア、看取りケアの質の可視化ができる

- 1) PJ メンバーを中心に、各職場における多職種参加のカンファレンスを整備し、実施出来る

- 2) 緩和・看取りのケアにおける質指標を検討する

活動報告

1. (1)e-ラーニングの受講の推進。

「終末期の基礎知識」受講率：60.5%

「高齢者心不全患者の緩和ケア」受講率：65.2%

(2)研修会の開催 3 回/年実施 目標：達成

①緩和看取りケアの薬剤(滝浪)

②緩和ケアにおけるコミュニケーション(西田)

③全人的苦痛と STAS-J(村松亜)

2. 4 階病棟で多職種参加による緩和カンファレンスを

6 回開催。適宜修正する必要あり。5 階病棟での緩和ケアカンファレンスの実現に向け、STAS-J の理解の促進から取り組む。緩和リハビリの評価指標がない中、CoQoLo 評価をもとにした当院独自の評価指標を作成し現在トライアル中。対象やタイミングなど運用検討が必要。また、評価をケアなどの実践へどう活かすか、次年度は具体的な方策を検討することが課題。

【自分らしく生きるを支援する PJ (ACP)】

開催実績 6 回

目標

- ①院内勉強会開催 3 件/年以上
- ②ACP 院外講座への参画 5 件/年以上
- ③PJ メンバーが上記勉強会・講座の講師を行うことができる (6/7 名)
- ④こころのノートの院内配布 150 冊
- ⑤こころのノートの持ち込み患者の事例検討 1 件/年以上

活動報告

- ①院内勉強会開催 3 件 (こころのノートの再周知、ノートが持ち込まれた場合の活用方法の模索)
- ②ACP 院外講座への参画 8 件 (ACP・こころのノートの啓発目的で袋井市圏域ごとの講演 1 回ずつ計 4 回、地域のサロンでの講演 4 回実施)
- ③PJ メンバーが上記勉強会・講座の講師を行うことができる (4/7 名)
- ④こころのノートの院内配布 254 冊
- ⑤こころのノートの持ち込み患者の事例検討 0 件

【始めよう働き方改革、新しい一歩を踏み出そう PJ】

開催実績 4 回

目標

- ①時間外労働の低減に繋がる業務改善：各職場 1 以上
- ②腰痛アンケート“問題なし”5%増加 (57%以上)

活動報告

- ①時間外労働の低減
 - ・ 3 階病棟の目標：超過勤務 30 時間以上 0 名
超過勤務 11 時間/月以内
結果：重症度 40%以上、高稼働 (90%以上)
超過勤務 30 時間超え 0 名
超過勤務 9 時間 26 分 達成
看護補助者へタスクシフト・サブリーダー導入、早退看護補助者 2 名体制、初期カンファレンス運用変更。
 - ・ 4 階病棟の目標：超過勤務 5.5 時間/月以内
結果：未達成

係活動を時間内に変更、16 時までの業務終了を職員へ声掛けし残務調整の実施、排泄表の変更を行った。

- ・ 5 階病棟の目標：日勤帯始業開始前出勤の是正
前年度より 30%減少
結果：看護師 23.5 分前→24.4 分前と微増
看護補助者 16.6 分→15.8 分と軽減
昼の配薬方法変更、朝礼・NR 申し送り時間変更。
- ・ リハビリ室目標：超過勤務入院 10 時間以内
訪問 20 時間以内
結果：超過勤務入院 12 時間 47 分
訪問 20 時間 35 分
私用申請 30 分以上 5 回までとしたが目標未達成。
- ・ 事務課目標：超勤 30 時間以上の職員 0 名
結果：未達成…窓口会計の時間を早め、玄関に施錠時間を掲示する取り組みを実施。
- ・ 薬剤室目標：超過勤務 13 時間/月以内
結果：超過勤務 10.51 時間/月以内へ減少
- ②腰痛予防対策
 - ・ 腰痛アンケート 12 月実施
結果：腰痛アンケート“問題なし”
95 人/176 人 54.0% 未達成
11 月全職員を対象とした腰痛体操導入開始。
リハ職が各職場へ出向き体操方法を指導した。
平日あるいは週 1 回各職場で体操を継続。
 - ・ 福祉用具活用の推進：6 月 PJ メンバーと職場長へラクニエ利用促進の案内を実施。
事務課でラクニエお試し利用実践。

【無駄と不足をなくそう PJ】

開催実績 3 回

目標

- ①共有車椅子の整理、整頓
- ②院内中央倉庫の整理・整頓、整備

活動報告

- ・ 共有物品の車椅子に関して整理、整頓を行った
- ・ 院内中央倉庫の整理・整頓、整備を行った。
- ①共有の車椅子と歩行補助具において、現状確認と修繕を実施。修理や処分など、整理をおこなった。
- ②院内中央倉庫について、旧病院の物や各病棟で使える物と使えない物が混在していたため、整理・整頓した。旧病院の物は袋井市への返却を行い、補完するものは物品配置の整理や整備を行った。

結果

- ①共有車椅子・歩行補助具の整理・整頓：達成
- ②院内中央倉庫の整理・整頓、整備：達成

NR 協働会議・委員会 活動報告

■ NR 責任者会 1回/2か月 2時間

看護部	春日三千代、松尾はる美、渡邊真智子、鈴木寿子
リハビリテーション室	豊田貴信、佐野真裕子、松浦万裕子、森下直彦、岡田史郎、鈴木翔

■ NR 協働委員会

	委員長	メンバー	備考
NR 感染	植村尚美 鈴木翔	・看護師：鈴木寿子、野田汐織、 エバンヘルスタマクスロイパネル、長尾香奈 ・療法士：橘内ひとみ、松浦万裕子 ・歯科衛生士：寺田泉	1時間 /回/月 (年2 回半日)
NR 医療安全	水野英子 岡田史郎	・看護師：鈴木美幸、榛葉満祐希、松尾はる美、佐藤千香、阿部麻美子 ・療法士：則次裕美、岩倉由美、古山佳実、奥田莉奈 ・薬剤師：滝浪素由	1時間 /回/月
NR 教育	佐野真裕子	・看護師：加藤怜子、大庭菜実子、戸塚なつ子 ・看護補助者：鈴木美帆子 ・療法士：森下直彦、秋山直登、辻昌伸	1時間 /回/月

【NR 管理者会】

開催実績 4回

審議・検討内容

- ・各委員会、病棟の目標をNRで設立
- ・NR協働における運営補助

目標(方針)

- ・利用者の“その人らしさ”を実現するため、療養と生活場面で質の高い支援をする
- ・目標設定の考慮点
 - ① 医療サービスの質改善
 - ② 業務の効率化
 - ③ 効果判定(アウトカム)
- ・2024年の協働テーマ「効率性」

活動報告

- ・中間評価報告会(2024.10.23)とワークショップの開催(2025.3.15)
- ・NR体制の目標管理
- ・とろみ濃度、ST訓練物品の病棟内管理方法の統一
- ・カンファレンス規約の更新
- ・内服管理リスクアセスメントの検討
- ・摂食条件表の掲示場所の統一
- ・VF、VEにおける家族連絡対応の見直し
- ・リハビリ総合実施計画書のフローチャートの修正
- ・療法士吸引研修の検討

【NR 感染対策委員会】

開催実績 9回

審議・検討内容

患者、利用者、職員を感染から守り、療養生活の場

において安全な環境を提供する

目標

- ・感染管理教育
職員の標準予防策理解度が80%以上になる
- ・手指消毒の遵守
1患者1日あたりの手指衛生実施回数が前年度比、各部署年間平均150%増加する
手指衛生5つのタイミングでの実施率のベースラインを算出する
- ・個人防護具(PPE)
PPEの正しい脱衣の手順の実施率が指導の前後で10%以上になる
- ・ユーティリティ内の環境整備
環境整備後、廃棄物間違いのモニタリングを12月に実施、感染性廃棄物処理間違いを年間0件にする。

活動報告

- ・感染管理教育
NR感染対策委員会内にて感染対策の基本、各病棟、リハビリにて標準予防策勉強会を実施。実施後のアンケート調査にて理解度96%。
- ・1患者1日あたりの手指衛生実施回数(回/日/人)

部署	目標値 (回/日/人)	実績 (回/日/人)(前年度比)
回復期病棟	5.2回	5.1(140%)
一般病棟	7.0	6.4(139%)
療養病棟	7.0	7.9(163%)
外来	2.2	1.7(112%)
リハビリ	1.5	2.2(224%)

療養病棟、リハビリにおいて目標達成したが、1患者1日あたり10回が目安とされるため継続して手指衛生に取り組む。

- ・PPE脱衣の実施率は指導前後で10%以上改善。

- ・ユーティリティ内の廃棄物の分別の見直しを行った。次年度掲示物を作成し、掲示しユーティリティ内の環境整備実施予定。引き続き活動継続する。
- ・使用済みのリネン類を回収するランドリバッグを院内で統一し、回収業者が回収後の処理に戸惑わないようにした。
- ・NR 感染対策委員が ICT（院内感染対策チーム）院内ラウンドへの参加（1 回/月）し、感染対策実施状況を確認し改善につなげている。

委員長 植村尚美

【NR 医療安全委員会】

開催実績 10 回

審議・検討内容

- ・患者に安全な療養生活を提供するための取り組みを確実に遂行する

目標

- 1) リスク予知能力を高める活動を実施する
 - (1) 患者誤認ゼロ
 - (2) 3a 以上の転倒転落 IA を 12 件以下
 - (3) 薬剤関連 IA を 20%減
- 2) 医療安全管理委員会と連携し多職種の視点で分析した対策を実践できるように支援する
 - (1) 3a 以上（スキンテア除く）や気になる事例に対して委員会で共有・分析する
 - (2) 円滑なコミュニケーションの手法を学ぶ（コミュニケーションの研修を開催）
- 3) MRM 周知とマニュアル遵守に向けた取り組みを推進する
 - (1) スタッフが安全に与薬・患者確認を行うことができる（ラウンド結果 80%以上）

活動報告

- ・患者誤認防止のため各職場で発生しやすい IA 事例を作成し事例を活用した KYT の実施
- ・ネームバンド取り扱いについて再周知し、全病棟ラウンドにて装着の是正を図った
- ・前月 IA より 3a 以上、又は気になる事例を抽出し、医療安全委員会へ提出した。

- ・薬剤 IA について RCA 分析を行い、摂食条件表の修正を行った。
- ・医療安全講習会（チェックバック）を医療安全委員会と連携し、FT を 6 回担当し実施。
- ・看護師へ与薬ラウンドを実施し達成度 95%、リハビリは酸素管理ラウンドを実施し達成度 98%だった。

- ・患者誤認に対する学研ナーシングサポートの受講を職員へ推進した。

委員長 水野英子、岡田史郎

【NR 教育委員会】

開催実績 9 回

審議・検討内容

- ・NR 協働の運営基礎となる「教育システム」の構築
- ・質の高いチーム医療を提供できる職員を育成する

目標

- ・チーム医療育成に向けた研修内容の整備
- ・24 年度振り返りを踏まえた 25 年度研修の計画立案
- ・チーム医療を推進できるスタッフの育成

活動報告

- ・2024 年新入職員研修の研修実施
- ・2025 年度新入職員研修のシャドーイング研修シート作成とアンケート内容の見直し
- ・各病棟で企画運営されている勉強会や研修会の集約と可視化、メールにて NR 全職員案内配信
- ・リーダー候補となる職員向け研修の目的と内容検討

委員長 佐野真裕子

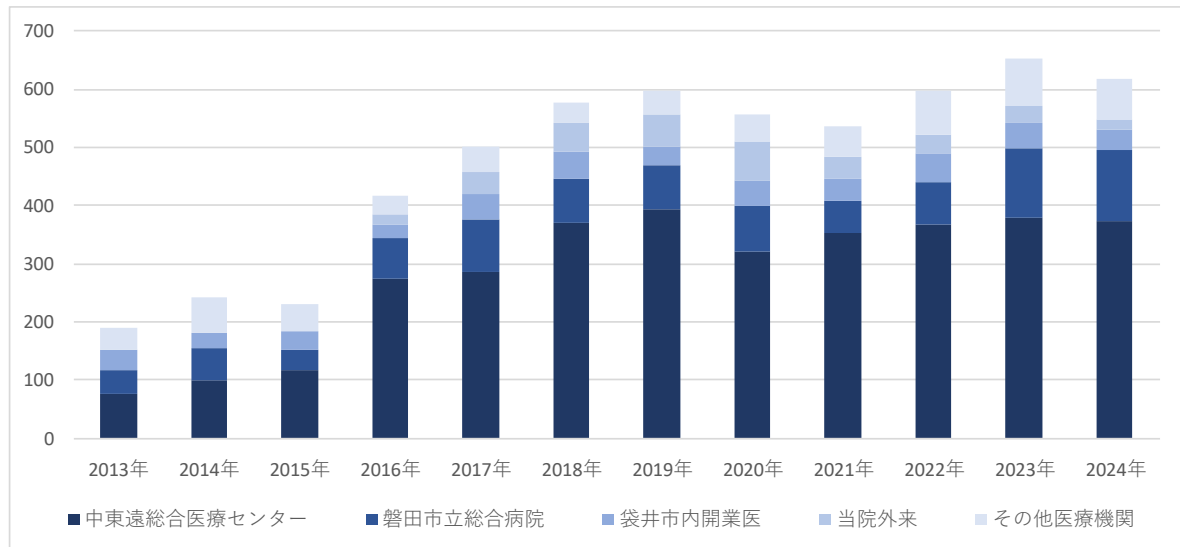
病院統計（入院診療）

■入院紹介件数

（単位：件）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
中東遠総合医療センター	77	99	118	274	285	369	392	322	352	366	380	372
磐田市立総合病院	39	55	35	70	91	78	78	77	56	74	119	123
袋井市内開業医	36	28	30	24	44	45	31	43	39	48	44	34
当院外来	0	0	0	17	38	50	55	68	38	34	29	18
その他医療機関	39	59	48	32	42	36	42	47	51	76	79	71
稼働病床数(単位：床)	50	86	86	123	137	150	150	150	150	150	150	150
病床稼働率	53.0%	69.3%	75.9%	72.7%	85.3%	81.1%	83.1%	84.0%	83.2%	83.1%	89.4%	88.7%

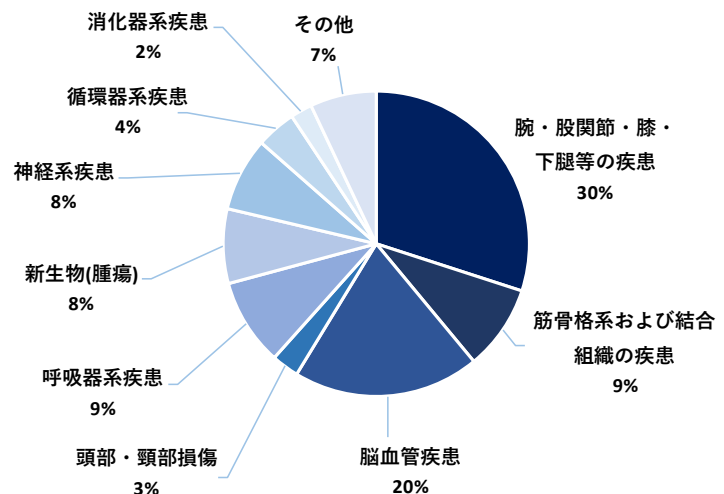
※2018年以降は、紹介実患者数



■入院患者 主な疾患別割合

（単位：％）

疾患名	割合
腕・股関節・膝・下腿等の疾患	30.0
筋骨格系および結合組織の疾患	9.0
脳血管疾患	19.7
頭部・頸部損傷	2.9
呼吸器系疾患	9.2
新生物(腫瘍)	7.9
神経系疾患	7.8
循環器系疾患	4.2
消化器系疾患	2.3
その他	7.0
計	100



■病棟別 入院延患者数

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
回復期病棟	－	－	－	10,239	11,107	12,846	13,456	14,075	14,884	14,978	16,671	16,624
一般病棟	8,048	11,920	11,597	11,988	15,918	15,713	16,732	15,603	14,929	14,987	15,480	15,432
療養病棟	－	1,027	12,304	13,534	15,954	15,822	15,440	16,293	15,727	15,492	16,912	16,474
全病棟延患者数	8,048	12,947	23,901	35,761	42,979	44,381	45,628	45,971	45,540	45,457	49,063	48,530
1日当たり患者数	22	35	65	98	118	122	125	126	125	125	134	132
病床稼働率	53.0%	69.3%	75.9%	72.7%	85.3%	81.1%	83.1%	84.0%	83.2%	83.1%	89.4%	88.7%

■病棟別入院患者数（2024年度）

（単位：人）

病棟	入院	退院	一日平均	延人数
回復期病棟	223	254	45.4	16,624
一般病棟	383	294	42.2	15,432
療養病棟	12	68	45.0	16,474
全病棟	618	616	133.0	48,530

■年齢・居住地別 患者内訳（2024年度）

（単位：人）

	～10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代～
年齢別延患者数	0	103	756	1,149	3,667	4,357	12,857	16,214	8,227

	袋井市	掛川市	磐田市	森町	浜松市	その他
住居地別延患者数	26,796	11,330	6,616	1,257	943	1,364

■リハビリ実績

	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
リハビリ単位数	5.4	5.8	5.9	6.4	6.1	6	6.2
リハビリ効率※	46.5	39	37.1	42.1	44.2	43.9	42.3
在宅復帰率	85.2%	84.7%	78.7%	83.8%	80.8%	84.8%	85.2%

※リハビリテーションの実施により患者の状態がどれだけ改善したかを示す指標

〔FIM利得（退院時と入院時の機能的自立度の差）／（入院日数／リハビリ算定上限日数）〕

■患者一人一日当たりリハビリ単位数

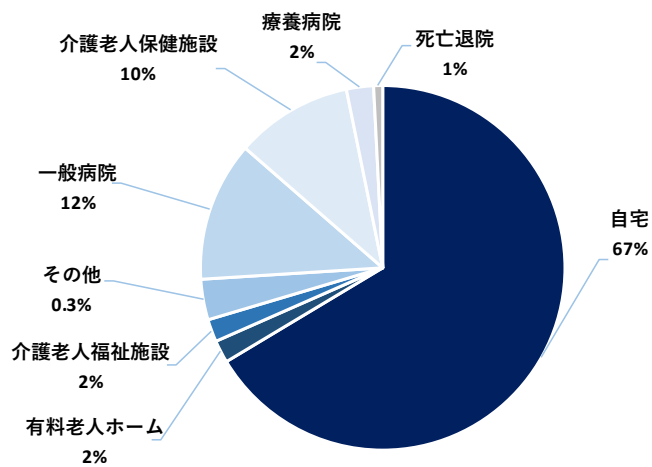
	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
回復期病棟	5.4	5.7	5.9	6.4	5.9	6.0	6.2
一般病棟	2.5	2.6	3.1	3.3	3.2	2.9	3.4
療養病棟	1.4	1.4	1.5	0.9	0.8	0.9	0.9

■病棟別転帰（2024年度）

【回復期リハビリテーション病棟】

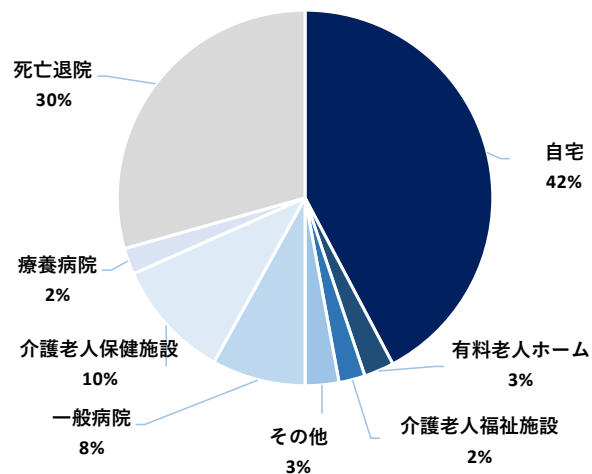
退院先	件数
自宅	166※
有料老人ホーム	5
介護老人福祉施設	5
その他	9
一般病院	31
介護老人保健施設	26
療養病院	6
死亡退院	2
総数	250
在宅復帰率	85.2%

※ は自宅退院扱い



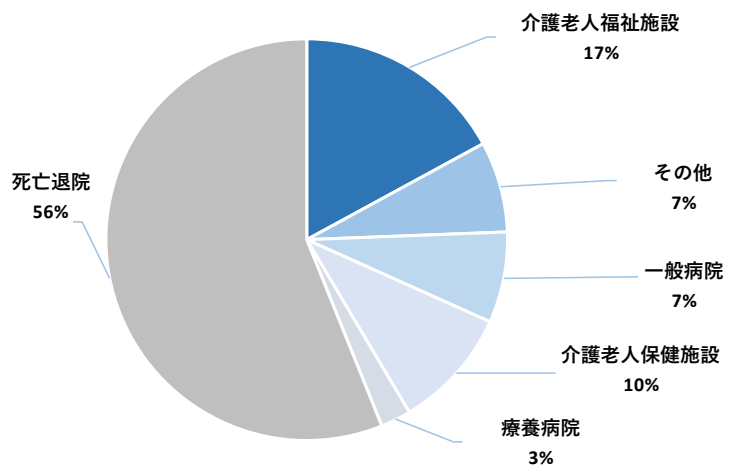
【一般病棟】

退院先	件数
自宅	131
有料老人ホーム	8
介護老人福祉施設	7
その他	9
一般病院	25
介護老人保健施設	32
療養病院	7
死亡退院	91
総数	310
在宅復帰率	72.6%



【療養病棟】

退院先	件数
介護老人福祉施設	7
その他	3
一般病院	3
介護老人保健施設	4
療養病院	1
死亡退院	23
総数	41



病院統計（外来診療・介護保険サービス等）

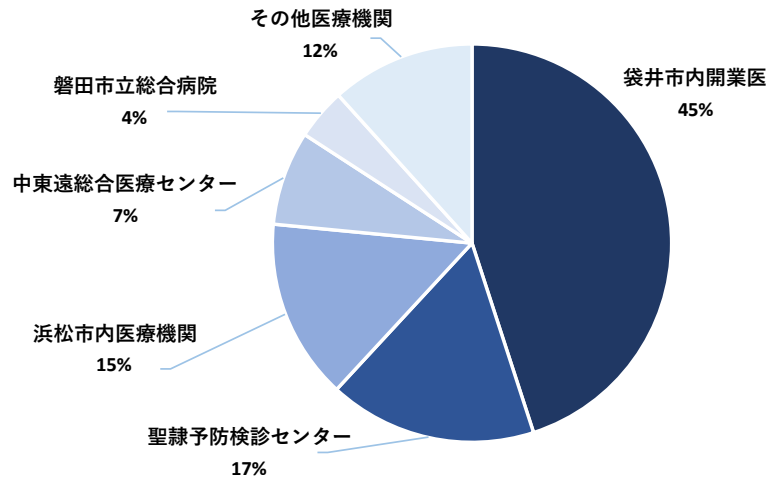
■外来患者数推移

（単位：人）

	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
外来延患者数	4,628	12,985	16,248	17,560	16,609	15,433	14,549	13,527	12,847	10,346	11,237	12,270
外来日数	202	244	243	243	244	244	240	243	242	243	243	243
1日当たり患者数	22.9	53.2	66.9	72.3	68.1	63.3	60.6	55.7	53.1	42.6	46.2	50.5

■外来紹介件数

	2024年
袋井市内開業医	347
聖隷予防検診センター	130
浜松市内医療機関	113
中東遠総合医療センター	59
磐田市立総合病院	32
その他医療機関	90
総数	771



■科別外来患者延数（2024年度）

（単位：人）

診療科	初診	再診	一日平均	延人数
内科	901	3,913	19.8	4,814
脳神経外科	767	3,953	19.4	4,720
整形外科	129	701	3.4	830
リハビリテーション科	35	721	3.1	756
耳鼻咽喉科	171	740	3.7	911
合計	2,003	10,028	49.5	12,031

■撮影装置の利用状況

CT	2019	2020	2021	2022	2023	2024
入院	202	188	203	315	325	291
外来	452	296	274	326	334	399
委託*	144	196	176	169	391	753
合計	798	680	653	807	1,050	1,443

MRI	2019	2020	2021	2022	2023	2024
入院	48	66	70	115	131	120
外来	839	812	868	750	784	880
委託*	118	113	100	297	543	1,188
合計	1,005	991	1,038	1,162	1,458	2,188

* 委託件数に「ふくけん」を含む

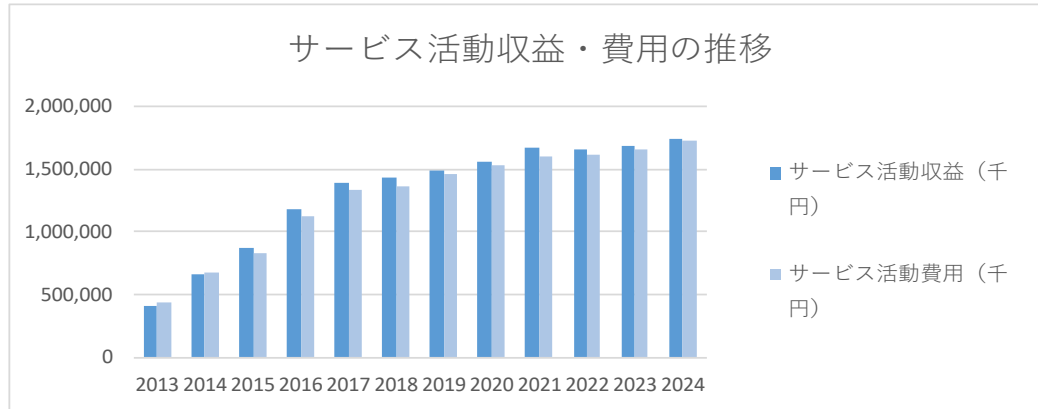
■訪問リハビリテーション実績

	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
実利用者数（人）	187	445	599	671	774	837
提供単位数（回）	2,371	5,627	8,247	9,504	10,535	11,988

財務統計

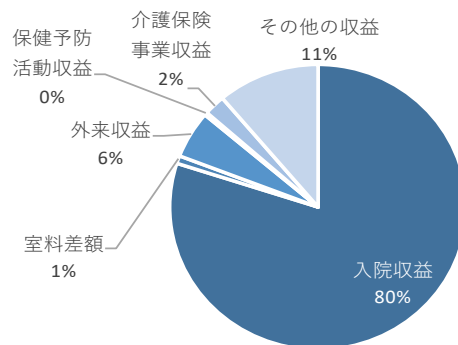
■ サービス活動収益・費用の推移

年度	サービス活動収益（千円）	対前年比	サービス活動費用（千円）	対前年比
2013	405,519	-	437,840	-
2014	652,963	161.0%	673,216	153.8%
2015	864,795	132.4%	832,692	125.8%
2016	1,174,679	135.8%	1,127,888	135.5%
2017	1,385,375	117.9%	1,327,469	117.7%
2018	1,424,215	102.8%	1,364,870	102.8%
2019	1,490,010	104.6%	1,459,927	107.0%
2020	1,552,278	104.2%	1,527,995	104.7%
2021	1,667,100	107.4%	1,600,190	104.7%
2022	1,661,016	99.6%	1,606,897	100.4%
2023	1,684,546	101.4%	1,651,544	102.8%
2024	1,735,755	103.0%	1,727,377	104.6%

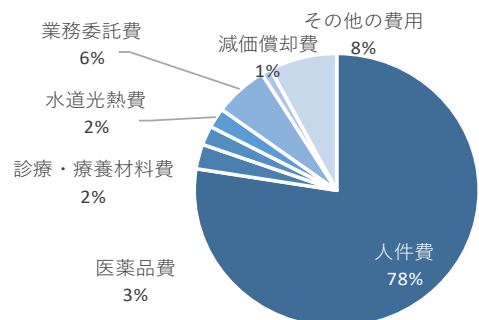


■ サービス活動収益・費用の内訳（2024年度）

	サービス活動収益（千円）	占有率
入院収益	1,388,027	80.0%
室料差額	15,216	0.9%
外来収益	92,884	5.4%
保健予防活動収益	5,658	0.3%
介護保険事業収益	40,186	2.3%
その他の収益	193,784	11.1%



	サービス活動費用（千円）	対医収比
人件費	1,339,223	77.2%
医薬品費	50,438	2.9%
診療・療養材料費	39,120	2.3%
水道光熱費	40,450	2.3%
業務委託費	106,319	6.1%
減価償却費	18,845	1.1%
その他の費用	132,982	8.1%



患者満足度調査

患者満足度調査結果

■調査期間

外来	2024年10月7日～10月11日
入院	2024年10月7日～10月25日

■回収枚数

	外来	入院
配布	179	130
回収	179	94
回収率	100.0%	72.3%

■性別

	外来	入院
男性	80	43
女性	71	44
未記入	28	7

■調査結果（抜粋）

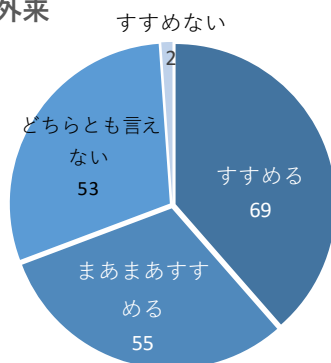
●来院の理由について

	外来	入院
評判が良い	18	8
自宅に近い	51	26
他院から勧められた	16	43
以前よりかかっている	59	8
ホームページ・広報誌を見て	3	1
未記入	32	8

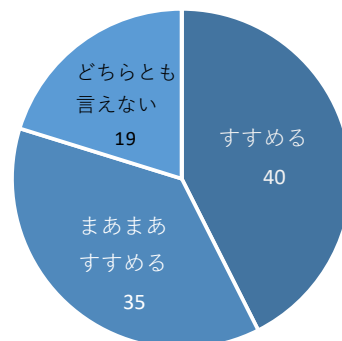
●あなたの親しい方にも当院をすすめたいと思いますか(総合評価)

	外来	入院
すすめる	69	40
まあまあすすめる	55	35
どちらとも言えない	53	19
あまりすすめない	0	0
すすめない	2	0

外来



入院



センター機能 活動報告

センター機能	室長	メンバー
医療安全管理室	春日三千代	・医師：大橋寿彦 ・看護師：春日三千代 ・薬剤師：滝浪素由 ・放射線技師：疋野奈央子（事務局） ・相談員：内山安寿佳
感染管理室	西田淳	・医師：西田淳（ICD） ・看護師：鈴木寿子、植村尚美 ・薬剤師：滝浪素由 ・検査技師：鈴木貴之（10月より清水美千絵）（事務局）
退院支援室	春日三千代	・看護師：春日三千代、鈴木恵子（専任） ・社会福祉士：吉澤文美（専従）、内山安寿佳、福島順子 ・事務：黒崎歩実果
在宅支援室	望月亮	・医師：望月亮 ・看護師：春日三千代、松尾はる美、水野英子 ・療法士：豊田貴信、佐野真裕子、橘内ひとみ（10月から菅尾美沙） ・社会福祉士：内山安寿佳 ・事務：梶間弘美、増澤友紀、溝口眞琴、平岩佳奈美

【医療安全管理室】

目標

- ・IA レポートを活用した医療事故防止対策
- ・有事の連絡対応
- ・医療安全に係る情報共有
- ・NR 医療安全委員会と連携した医療安全推進活動

活動報告

- ・医療安全カンファレンス 週1回（49回実施）
- ・IA 事例の精査と対策立案、経過観察
- ・医療安全管理委員会の議案検討
- ・医療安全ニュース発行（12回）

【感染管理室】

目標

- ・感染に関する職員教育・研修や院内感染の状況把握、対策周知に関する業務を ICT と連携して行う

活動報告

- ・院内感染対策研修会の企画、開催
全職員参加必修2回
- ・院内感染対策ラウンド
病棟は毎週、他職場は月1回程度実施
フィードバック、指摘事項の改善状況の確認
- ・感染レポート作成（毎週）
検査依頼、微生物検出状況の報告
耐性菌保菌状況の報告
- ・アンチバイオグラムの作成
- ・中東遠感染対策ネットワーク参加
5回参加
- ・中東遠総合医療センター（感染対策向上加算1施設）
ICN による感染対策院内巡視の実施（12月5日）
- ・新型コロナ/インフルエンザ病棟発生対応
2024年7月・8月・2025年1月・2月・3月

【退院支援室】

目標

退院困難な要因を有する患者に対し、退院後も住み慣れた地域での生活や必要な医療の継続ができるように、地域の医療・介護・福祉施設と連携を取り、患者及び家族の支援を行う。

活動報告

- ・転院相談の段階から医療福祉相談室と連携して、退院困難な要因を有する患者を把握し、入院初期の段階から病棟看護師と共に退院支援を行った。
- ・ベッドコントロール会議に参加し、患者早期受入を行うために、病棟管理シートを用いて入退の状況を可視化し、退院支援や転棟調整を行った。
- ・退院支援室として毎週1回リハビリカンファレンスと退院支援カンファレンスに参画し、多職種と共に退院後の生活について検討した。
- ・病棟看護師が在宅退院の患者の退院前訪問や退院後にテレフォンフォローアップを行い、退院後も住み慣れた地域での暮らしを継続できるように患者家族の支援を行った。
- ・医療介護連携連絡会に参加し、2024年度は、患者が切れ目なく希望の医療介護を受けることを目的に、情報共有の強化を図った。入院時の情報共有の強化を目指すため、ケアマネジャーが作成している入院時情報提供書の活用について検討した。入院時情報提供書について、急性期病院へ当院とケアマネジャーの双方から働きかけを実施し、運用が開始された。
- ・居宅介護支援事業所への広報活動
- ・退院支援グループ
- ・院内研修実施
(ラダーレベル研修、訪問看護同行研修)
- ・袋井市医療介護連携連絡会年3回開催
- ・看看連携（訪問看護）方法の運用マニュアル改定の検討
- ・退院前後訪問、テレフォンフォローアップの実施
- ・訪問リハグループ
- ・介護報酬改定に伴う重要事項説明書、料金表の改定
- ・10月～土曜日利用開始
- ・退院時共同指導加算取得
- ・栄養指導情報伝達シート運用見直し、栄養指導の実施
- ・ふくろい地域リハビリテーションをはぐくむ会の開催2回

【在宅支援室】

目標

- ・切れ目のない支援とは何か明確にし、現状課題を把握する

活動報告

『地域住民が、自宅で最期まで（看取りまで）自分らしく生活し続けるための（QOL向上、健康寿命延伸）支援をすること、またそのための人材育成および院外連携先との“チーム感”を醸成すること』

と目的を掲げ、2024年度は上記目標を目指し、訪問診療・退院支援・訪問リハの3Gで活動

退院支援グループ

- ・訪問診療利用者への聞き取りによる課題の抽出
- ・訪問診療の重要性について静岡県看護協会にて発表

【診療部】

■診療科

- ・耳鼻咽喉科：1名
- ・脳神経外科：2名
- ・内科：3名（うち 非常勤 1名）
- ・リハビリテーション科：1名
- ・整形外科：非常勤 2名（聖隷浜松病院）

■振り返り

医師体制に変更はなく、急性期病院からの下り搬送や転院の迅速な受け入れを継続し、病床稼働率の維持に貢献できた。関係各位の尽力に感謝したい。

【トピックス】

- ・耳鼻咽喉科

週2日の外来を継続し、終末期の頭頸部がん患者など、入院患者の受け入れを継続した。袋井市よりヒアリングフレイルや補聴器助成に関する相談を受け、聴力検査機器を導入、補聴器相談医としての診療体制を整備した。

- ・脳神経外科

回復期リハビリテーション病棟入院料の上位基準を維持するため、新規入院患者の重症度割合の向上を目的に、急性期病院との連携強化を継続した。

また、2021年12月より、事業団主催の看護師の特定行為研修（気管カニューレ交換実習）の受け入れを継続している。

- ・内科

脳神経内科の大橋医師が常勤となり、めまい・頭痛・難病患者の診療が当院の特徴のひとつとなった。3名体制に戻ったことで、外来診療体制の見直しや、内視鏡検査の予約枠の拡大を実施した。

- ・リハビリテーション科

リハビリテーション医学的な観点から在宅主治医を支援する訪問診療は3年目を迎え、実患者数は14名（うち新規8名）となり、40%の増加となった。ボツリヌス療法を3例実施した。

入院患者の重症度割合の向上を目的とした急性期病院との連携に加え、訪問診療の拡大に向けて森町家庭医療クリニックや地域診療所との連携も継続している。

- ・整形外科

2022年2月より聖隷浜松病院の整形外科医師による入院診療支援を開始。急性期病院からの転院例や診療所からの紹介例などを遅滞なく受け入れている。2022年6月から再開した外来診療は、2023年6月に週2回、2024年9月には週3回以上へと増加させることができた。

- ・褥瘡治療

2023年10月よりVAC療法（局所陰圧閉鎖療法）を導入し、従来の治療では対応が困難だった創傷管理が可能となった。これにより褥瘡治療を目的とした患者の紹介も増加した。また、事業団主催の看護師の特定行為研修（創傷管理関連）の実習受け入れも開始した。

■入外実績

■診療科別延患者数

（単位：人）

診療科	入院	外来
内科（発熱外来含む）	12,589	4,964
※発熱外来	—	391
脳神経外科	13,822	4,721
整形外科	3,841	831
リハビリテーション科	18,110	749
耳鼻咽喉科	168	1,005
合計	48,530	12,270

病院長 林 泰広

【看護部】

■振り返り

2024 年度は、2022 年～3 ヶ年計画の総括の年であった。2013 年 5 月に開院して、前任の渥美直美看護部長が築いてきた聖隷袋井市民病院の目指す看護を“より具体的にしよう”と取り組んできた。看護部教育体系は「高齢者・認知症」「看取り・緩和ケア」、そして患者の意志決定の支援や日々のケアに潜む倫理的課題を解決するための思考を学ぶ「臨床倫理」、看護上の問題への介入を記録する「看護過程と看護記録」、それらに加え、看護専門職としての役割と組織役割遂行能力を兼ね備えた看護師の育成を目指し「看護サービス管理」の 5 つを柱とした。中でも、臨床倫理においては、2023 年度より聖隷三方原病院看護部倫理研修に参加し自施設以外の医療や看護のあり方、考え方を学ぶ機会を得た。この 3 ヶ年は、聖隷袋井のめざす看護の実現にむけ「高齢者・認知症」「看取り・緩和ケア」の看護の質を高める、また、日常のケアに潜む倫理的な課題、患者の思いを尊重した意思決定支援に注力した。人材育成では、この 3 年間で特定看護師 2 名、感染管理特定認定看護師 1 名の育成がなかった。2024 年度は介護福祉士の資格を有する看護補助者を係長に登用した。2025 年度は、一人一人が身につけた知識・スキルを以て、患者さんの思いに寄り添った看護が実践できるように邁進する。

■部門目標

1. 専門職として実践能力を高め患者・家族にサービスを提供する
- 1) 看護部研修は 26 研修、研修時間は 208 時間、研修参加延べ数は 141 名だった。2024 年度は「フィジカルアセスメント 1・2」、特定看護師による「発熱」に焦点をあてトピックス研修、退院調整に難渋する高齢者・認知症の模擬事例を使った「入退院支援」癌および非癌患者の終末期における倫理的な課題に向き合う「倫理」研修などに注力した。特に、倫理研修は、聖隷三方原病院看護部研修に 6 名（荒木麻美、加藤怜子、松尾遼太、藤崎知里、植村尚美、水野英子）参加し、聖隷三方原病院の老年 CNS 佐藤晶子氏のサポートを受け、タイムリーに倫理カンファレンスを実施した。2024 年度は、クリニカルラダーレベルⅣ・Ⅴの評価・認定方法を整備する計画を立案していたが、2023 年 6 月に、日本看護協会から「学びサポートブック」が発行されたことを受け、委員会では、これまで使用していたクリニカルラダーをこの「学びサポートブック」に沿って整備する方針を決定した。ラダー改訂に取り掛かることはできたが、整備までは至らず、2025 年度の課題となった。
- 2) 看護補助者能力評価表Ⅰ・Ⅱ、看護補助者（介護）教育ラダーも併せて改訂した。2023 年度、2024 年度の新入職員には、看護補助者能力評価表Ⅰ・Ⅱにて評価を行った。看護補助者業務基準、看護補助者教育についても改訂した。さらに、介護福祉士の資格を有する看護補助者の業務内容の見直しを行なった。これらの改訂には 5 回の会議を要した（会議メンバー：3 階病棟小林敦子、5 階病棟平川圭祐、看護課長、看護部長）
2. 安全な組織文化を醸成する
- 1) 転倒による大腿骨頸部骨折 5 件、胸椎骨折 1 件であった。大腿骨頸部骨折 5 件の内、入院当日にベッドサイドで受傷が 1 件、残り 4 件は、ADL が自立から見守りレベルの患者であり、病室入口や洗面所で受傷していた。ベッドサイドにころやわ®（高い衝撃吸収性のあるマット）が敷いてある場所での転倒は、骨折に至っていなかった。
- 2) コロナによるアウトブレイクは 3 階病棟：2024.7.24～8.5、2025.2.2～2.14、4 階病棟 2024.8.11～8.22、5 階病棟 2024.8.26～9.8、インフルエンザは 5 階病棟で 2025.2.10～2.19 に発生した。しかしながら、感染後の的確なゾーニング、病棟及び外来間の応援体制の強化を図り、病床稼働の維持に努めた。日常的に感染対策を講じていても、個人防護具の着脱、手指衛生など定期的に教育の必要性を痛感した。コロナ以外では、感染管理特定認定看護師を中心に、中東遠地域の医療・介護施設間で、バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）の患者の受け入れについて情報共有し、当院での体制を再確認した。
3. 新しいことに挑戦し続ける組織へと成長する
- 1) 2024 年 11 月感染管理特定認定看護師が誕生し、院内の感染管理体制の整備及び静岡県西部における感染情報や感染対策を共有、積極的に活動をした。特定看護師は 3 名となり、行為区分「栄養及び水分管理に係る薬剤投与」「感染に係る薬剤投与」「創傷管理」、2025 年度修了予定 2 名、行為区分「呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）」）。職員協力のもと、e ラーニングや実習などに関わる時間の保障をした。
- 2) 院内に特定行為研修委員会を設置、職場代表者会議にて特定看護師の活動を報告した。今後も、特定行為研修の受講を勧める座談会（特定看護師の活動と特定行為研修受講の勧め）を

開催し、多くの特定看護師を育成したいと考える。そのためには、特定看護師が院内を横断的に活動できる環境整備と診療部との連携をますます図る必要がある。

- 3) 個人のキャリアデザインを目標参画で共有した。看護師養成所2年課程（通信制）を卒業し看護師免許取得（高谷憲伯）、磐田市立総合病院で開催された合同臨床指導者育成コース2名（八木茜、花田由紀子）、災害支援ナース養成研修2名（槇山陽香、春日三千代）、看護管理者教育課程ファーストレベル修了（加藤怜子）介護福祉士実務者研修修了2名（仲林夢渚、田端哲也）、事業団中堅研修修了等、それぞれが研鑽した。
- 4) 株式会社クラブ主催看護工連携ワークショップに参加、優秀賞に選ばれた（鈴木寛子、渡邊真智子）
4. ヘルシーワークプレイス（健康で安全な職場）を意識した職場づくりを実現する
 - 1) 中途採用者の定着が図れず、病棟スタッフの疲弊感につながっていたが、新しく入った職員が組織に馴染むよう看護部役職者の行動変容に努めた（オンボーディングの推進）。
 - 2) 育児休業取得、復職の際は事務課担当者の丁寧な説明により、利用できる制度の理解が進み、職場の協力もあり復職ができた。
 - 3) 職員のコロナ感染による人員不足は、外来・病棟間で応援体制を強化した。外来から病棟への応援は年間を通して6.05人工となった。コロナ禍で始まった応援体制は平時においても継続し、毎朝看護部長、看護課長、外来スタッフが集合し、患者情報や人員配置（急な欠員や病棟の患者状態と業務量の把握）を共有し、時間単位での応援を組んだ。
5. 多職種・地域と連携するなかで看護の力を最大限に発揮する
 - 1) 特定看護師（創傷管理関連「褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去」「創傷に対する陰圧閉鎖療法」）の活動に伴い褥瘡の創傷処置が必要な患者の受け入れも増え、急性期病院での処置が継続可能となった。
 - 2) 2022年度～2024年度、患者の意思決定を支援することを目的に「自分らしく生きるを支援するPJ（ACP）」が活動、看護師、看護補助者が参画した。院内の活動がきっかけとなり、袋井市の依頼を受け袋井市版ACP“こころのノート”普及に向け地域住民に積極的に啓発活動をした（講師：片岡祐希、荒木麻美、水野英子、村松亜由美）。

看護部長 春日 三千代

【3 階病棟】

■職場方針

その人らしくいきいきとした暮らしを支援する

■職場目標

退院後の生活を見据えた療養生活を NR が協働して提供できる

■重点課題

回復期リハビリテーション入院料 1 (以下、回りハ 1) 取得に向けた体制を整備する

■振り返り

NR 協働の重点施策である「効率性」に焦点をあてた活動に注力した。サブリーダーの導入、入院業務の整理、業務のタスク・シフト等を実施した。看護補助者の業務と就業時間帯を検討し、患者の起床後から消灯までの時間にスタッフを充てた。加えて、重点課題を達成するために、カンファレンスの開催方法の見直しや、即入に 대응する体制を整備した。その結果、2 月からの回りハ 1 取得を達成し、超過勤務時間は削減した。「効率性」という視点とは異なるが、NR が協働し、コロナ禍で中止していた食堂での昼食摂取を約 4 年ぶりに再開した。

病棟内のグループ活動は係活動として、安全、感染、教育、記録の 4 つ、質改善活動として、認知症、ひまわり活動、栄養口腔ケア、回りハ 10 箇条、の 4 つ、合計 8 つを組織し、NR のスタッフが協働し活動した。

看護師の専門性を発揮する場としては、既存のカンファレンスの内容を評価、修正した。看護を語り、チームで患者を支援する方略を検討するためのカンファレンスを導入した。看護上の問題点をチームで検討している。

今後は、回りハ 1 の維持を目指し、意思決定支援能力や疾患別リハビリテーション看護の専門性強化が必要である。以下には、看護部部門目標に対する 3 階病棟の実践を評価し、項目毎に記述する。

■実績

1. 専門職として実践力を高め患者・家族にサービスを提供する

カンファレンスの内容を見直し、週 2 回看護上の問題点を検討するカンファレンスを行なった。身体拘束最小化や、認知症ケアを拡充するための話し合いが頻繁に行なわれるように

なった。その結果、身体拘束を行わず、見守りながら療養支援する風土が醸成されつつある。また、食堂での昼食摂取を再開し、12 月からは洗面台での食後の歯磨きを開始した。定点チェックでは、ガーグルベースン使用率が 100% から 55% に減少した。

2. 安全な組織文化を醸成する

安全係では、患者誤認ゼロを目標とし、注射実施時の 3 点照合を唱和した。患者誤認ゼロを達成した。感染係が中心となり、吸引ワゴンの整備、ベッドサイド環境の整備を実施。ベッドサイドに軟膏を入れる箱を設置、診材を置く場所を定位置としたことで、整理整頓された環境が整備された。

3. 新しいことに挑戦しつづける組織へと成長する

回りハ 1 取得を目指し、カンファレンス方法の見直し、サブリーダーを導入し即入に 대응する体制を整備した。

2 月の職場会で、各々の大切にしている看護を言語化し、まとめ、病棟方針や病棟目標を再考した。2025 年度は、新たな職場方針として、「患者が持つ能力を信じ丁寧に人生の再構築を支える」を掲げる。職場目標については、1) 回復期リハビリテーション病棟職員として専門性を追求する (Key word: 脳卒中、高次脳機能障害、フィジカルアセスメント、嚥下障害)。2) チームで主体的に退院支援を行うための構造・プロセスの整備。3) 働きやすい心理的安全性の高い職場、とした。

4. ヘルシーワークプレイスを意識した職場づくりを実現する

業務を効率良く行うため、既存の方法を見直した。入院業務の簡略化、環境整備やオムツ補充を看護補助者業務へ移行、書類の整理をクラークへ移行、アイス綿棒作成を ST へ移行した。超過勤務は 2024 年 1~3 月と比べ同時期に 6 割減少した。

5. 多職種・地域と連携するなかで看護の力を最大限に発揮する

退院前訪問 11 件、退院後訪問 6 件

退院前カンファレンス 27 件

テレフォンのフォローアップ 66 件

地域で取り組むこころのノート普及活動について、病棟内でのこころのノートの配布状況は 37 冊 (2 月現在) であった。院外への ACP 普及活動として、病棟看護師が地域に出向き、講座を行った。

課長 渡邊 真智子

【4 階病棟】

■職場目標

患者や家族のニーズを捉え、その人らしい選択や生活ができるケアを提供する

■運営方針

1. 看護師と療法士が協働し質の高いサービスを提供する
2. 専門職として自律した実践のための挑戦をする
3. 自分も相手も尊重するコミュニケーションで共に学び合う

■振り返り

1. 専門職として実践力を高め患者・家族にサービスを提供する

質指標として転倒件数月平均 4 件以下と掲げ、3.6 件と目標達成した。転倒総数は 43 件と昨年と変わらなかった。コミュニケーションエラーによる転倒 1 件 4 月に発生したが、6 月に発生事例をもとに勉強会を開催し、その後の発生には至っていない。整形疾患の増加により転倒の傾向に変化がみられており、次年度は分析をもとに対策を講じていく。院内褥瘡発生件数は 34 件と昨年と比較し増加した。病棟ラウンドや勉強会の開催、ポジショニング表の作成推進など NR 協働で取り組み、下半期には減少傾向となった。スキンテアは 56 件と昨年とほぼ変わらないが、同一患者による発生は昨年より減少しており、入院時のスキンテアリスクアセスメント評価やアームカバーや保湿剤塗布などの予防的な対策効果が出ていた。看取りの患者に対してパンフレットをリハビリが作成し配置し、看護では STAS-J の入院時評価を開始、リハビリでは CoQoLo を使用した表かを開始した。まだ十分な活用には至っておらず、これらを活用したケアや介入の質評価を行っていくとよい。また、多職種が参加した緩和カンファレンスの開催ができ、多角的にみた視点でスムーズなケアの提供に繋げることができた。デスクカンファレンスは 2 件実施し、次年度はグリーンケアにも視点をおいた関わりを深めていきたいと考える。

2. 安全な組織文化を醸成する

服薬・注射のマニュアル遵守を目標に係活動主体で取り組んできた。服薬は 7 月～8 月にマニュアルチェックを実施し、落薬件数は 21 件と昨年 60 件から大幅に減少することができた。注射は、注射実施時の 3 点照合を行い、患者誤認防止に努めた。ヒューマンエラーを減らした

めに円滑なコミュニケーションは重要であり、アサーティブなコミュニケーションスキルを身につけることを目標として掲げてきた。NR 協働で取り組み、9 月に勉強会を開催した。前後アンケートでは苦手と感じていたスタッフができるようになったという意見が見られていた。7 月、12 月と COVID-19 やインフルエンザの発生があったが、NR 協働で乗り切ることができた。手指消毒の徹底、5 つのタイミングを朝の申し送りなどで周知を図った。BLS 研修は全職員参加することができた。

3. 新しいことに挑戦しつづける組織へと成長する

せいい看護学会へ 3 名参加し、1 名発表を行った。聖隷三方原病院での倫理研修に 1 名参加、病棟で倫理カンファレンスを開催することができた。NST 加算対象研修に受講者 2 名参加し、11 月から NST 加算開始となった。毎週カンファレンスを実施し患者の栄養改善に努めている。

4. ヘルシーワークプレイスを意識した職場づくりを実現する

働き方 PJ 主体となり腰痛予防体操を開始し、週 5 回実施し健康管理に努めている。前年度から行っているリーダー 2 名体制を継続し、リーダー負担軽減となっている。今年度は 1 名のリーダー導入を行い、2 名体制により OJT がスムーズに行えている。平均超過勤務時間は 5.7 時間/月となっており、昨年よりも減少している。

5. 多職種・地域と連携するなかで看護の力を最大限に発揮する

訪問看護出向事業参加者による研修会を 10 月に開催し、出向で得た知識をスタッフが知るよい機会となった。退院前訪問 1 件、退院後訪問 1 件と少なかった。

■まとめ

今年度は NR 協働の体制が開始し 3 年目となり、NR 協働における成果の認識と発信を目標として取り組んできた。前年度と同様に 5 つの係活動、3 つの質活動で組織し、各専門職の役割を意識して効率良く取り組むことが出来た。アサーティブなコミュニケーションにより計画的に活動することができた。次年度も成果が認識できるように NR 協働で取り組んでいく。

課長 松尾 はる美

【5 階病棟】

■職場方針

患者家族に寄り添い、その人らしい生活が送れるよう支援する

■目標

1. 患者や家族の意思を尊重し、気持ちによりそったケアを提供する
2. 安心して療養生活を送れるよう、安全な療養環境を提供する
3. 一人ひとりが互いを思いやり、働きやすい職場をつくる

■振り返り

今年度は、職場方針にある「その人らしい生活」とは何か、「その人らしい生活」を送れるように私達は何をすればよいかを職員が考え言語化することから始めた。相手の立場になって話を聴く、患者・家族の希望する療養生活を送れるように環境を整える、看取り緩和ケアを充実させる、患者・家族に寄り添い意思決定支援をおこなう、デイケアなどのレクリエーションを充実させるなどの意見があった。言語化することで実践すべき具体的な内容が明らかとなり、それぞれの係活動に活かすことができた。

1. 専門職として実践能力を高め患者・家族サービスを提供する
感染管理特定認定看護師 1 名、創傷処置関連特定行看護師 1 名が研修を受け合格した。院内での横断的な活動を開始している。
意思決定支援では、コスモシートを用いて患者・家族の想いを聞き取り、カンファレンスで活用する事を継続した。また、意思決定支援カンファレンスを病棟カンファレンスのスケジュールに組み込み定期的に開催することができた。月 2 回以上開催するという目標を達成している。聖隷三方原病院の倫理研修Ⅱ 2 名、Ⅲ 1 名、Ⅳ 2 名が参加した。4 分割を用いた倫理カンファレンスを研修参加者や係を中心に開催することができた。
看護補助者が中心となり定期的にデイケアを行えるよう業務を調整した。デイケアカンファレンスを開催し多職種でディスカッションし、患者の個別性を重視したデイケアを提供することができた。看護補助者の係長がデイケアの必要性を職員に伝え、積極的に取り組めるよう意識付けをおこなった。また、介護福祉士は認知症ケア計画書を用いて介護過程を展開しデイケアの評価をおこなうことができた。患者ケアの充実と職員のやりがいにつながっている。スキンテアの予防では、NR で協働しオムツ交換、体位変換について勉強会を開催した。また、保湿を徹底するために、保湿剤の塗布の仕方、タイミングなどを周知した。
2. 安全な組織文化を醸成する

医療安全では、食事の配膳で患者誤認が 2 件発生。患者確認をマニュアルに沿って確実にこなうよう係を中心に働かけると共に、ネームバンドの着用を見直した。長期療養患者は、ネームバンドが劣化して印字が薄く読みにくくなり、またスキンテア予防のためネームバンドをベッドサイドに貼っている患者がいた。入院患者全員のネームバンドのスキンテアリスクを再アセスメントし着用率があがっている。患者のベッド周囲の環境を見直した。特にコンセントによる、転倒や断線のリスクを軽減させるため、コンセント類の整理をおこなった。安全な職場環境にはアサーティブコミュニケーションが必須である。積極的に意見を伝え報告、連絡、相談がスムーズにできるような環境を作りが課題である。

感染管理では、患者の気管内吸引に使用する物品を個別のワゴンを使用するように変更した。患者のベッドサイドに物品があることで、吸引実施時に速やかに PPE を着用することができるようになった。しかし、8 月にコロナウイルスの感染が拡大、改めて職員の手指消毒、PPE の着脱を正確におこなうよう特定認定看護師を中心に手技やタイミングを確認した。

経管栄養のシリンジを単回使用にするため、病棟内でプロジェクトを発足し活動を開始した。

3. 新しいことに挑戦しづける組織へと成長する
NR 協働となり、療法士と共に係活動をおこなう体制が定着した。朝の申し送りを一緒に行なうことでコミュニケーションを図った。また、NR の管理者で 1 日 1 回情報交換の時間を設け、タイムリーに問題解決できるようにした。
4. ヘルシーワークプレイスを意識した職場づくりを実現する
腰痛体操を開始し、腰痛予防に努めた。病棟内の業務を見直し、重複する業務や不要な業務を整理し、効率化を図った。
5. 多職種・地域と連携する中で看護の力を最大限に発揮する
ACP のプロジェクトに参加した職員が地域で講義を行なった。
退院支援Ⅱ研修後の訪問看護ステーション同行研修に 1 名参加した。

■まとめ

「その人らしい生活」を言語化し、必要な看護やケアを明確にして看護・ケアをおこなうことができた。職場内で安心して意見交換が行えるよう、互いを尊重し、アサーティブなコミュニケーションができるような環境作りが今後の課題である。

課長 鈴木 寿子

【外来】

■職場方針

1. 外来看護の専門職としての役割を発揮する
2. 地域で暮らす患者がその人らしくいきいきと生活できるよう、入り口と出口をシームレスにつなぐ
3. 患者から選ばれる病院を目指す(地域 No.1)

■目標

1. 専門職としてフィジカルアセスメント力の向上を図る
2. 適切に情報収集、記録をして継続した外来看護を実践する
3. マニュアル・ルールを遵守した仕事の仕方を身につける
4. ガイドラインに基づいた感染管理を行う
5. 危険予知能力が向上する
6. 倫理カンファレンスに参加することができる
7. 研修や学会へ参加し他スタッフと学びを共有できる
8. 訪問診療における課題を明確にできる
9. 係活動が定着化する
10. 働き方改革 PJ と協働し業務のスリム化を図る
11. ACP について知識を深め患者と共有する
12. 継続看護の意識を持ち行動できる
13. リハビリカンファレンスへ参加し情報共有ができる

■振り返り

1. e-ラーニングの活用を推進。各自受講したい項目を選択、勤務時間内での受講も推進、職場会で5項目受講した。受講率100%となった。
2. 退院した患者の退院後初診時の記録を病棟へフィードバックする取り組みを開始。総数 75 件の聞き取り・フィードバックができた。問題により外部と連携をとったケースはなかった。
3. 内服ラウンドを実施し、正解率は 89%であった。復唱と投与時間の確認不足があったため MRM の周知活動を継続している。
4. 6 月から手指消毒啓発のために手指衛生 5 つのタイミングが記載されたポスターを掲示した。7 月から手指消毒使用強化週間にスタッフ各自で 1 日使用目標値を設定、12 月からは手指消毒使用強化週間を月に 1 回から 2 回へ増やした。結果、12 月以降目標達成に至った。
5. 6 月から健康問いかけ KYT を導入。7 月から KYT4 ラウンド法を開始し、外来職場会や NR 協働で合計 7 回実施できた。外来や訪問リハビリでよくみられる危険な場面の事例を 7 件作成、KYT に活用した。IA 報告は 10 件(うちヒヤリ・ハットは 1 件)、書類確認の不備で

発生した物の誤認 IA が 5 件。活動継続が必要。

6. 11 月に外来で倫理カンファレンスを実施。訪問リハビリスタッフや病棟スタッフの参加もあり他職種での検討ができた。病棟の倫理カンファレンスへの参加は 4 件。
7. 2 つの研修に参加、職場会で伝達講習済み。
8. 訪問診療を利用した患者家族への聞き取りを実施。9 名(患者 2 名、家族 7 名)の内容から、訪問診療導入時に課題があることが分かり、3 月から訪問診療導入面談を開始している。
9. メンバーで年間計画を立案。活動状況を定期的に職場会で共有でき活動は定着化した。
10. 業務の洗い出しを行い、大きな業務変更はなし。7 月より各職場長と朝の打ち合わせが開始され、当日の応援調整が円滑になった。クラーク会を 2 回行い、業務の応援内容も調整した。
11. こころのノート配布数は 145 冊であった。患者との共有は未実施。
12. 退院前面談 2 件、退院前カンファレンス 1 件、看取りケア CF3 件、リハビリ会議 4 件参加。入院中から情報収集を行うことができた。
13. 訪問リハビリカンファレンスには火曜日に参加(第 1 除)。通院リハビリカンファレンスには 2 月に参加。参加目的や体制を検討したい。

■まとめ

2023 年度から継続看護に取り組み、2024 年度は病棟への看護サマリ活用後のフィードバックを開始した。病棟へのフィードバックは 75 件、問題により外部に繋いだケースはなかった。外来でも退院後の生活で困り事はないか意図的に聞き取りをするようになり、継続看護を意識した行動ができるようになった。

医療安全の取り組みとして KYT 活動を開始。基本カードファイル内へ他患者の書類を間違えて入れてしまうと書類の誤認が 3 件発生。基本カードと書類の ID 氏名を照合するルール遵守が重要。2023 年度から開始した外来での係活動も 2 年目となった。係長がチームリーダーと情報を共有しながらスタッフ自身が計画立案・評価・修正までやり遂げるようサポートした。また、2024 年度から非常勤スタッフも院内の PJ 活動へメンバーとして参加をしている。病院全体や病棟の動きを把握しながら役割を持つことでモチベーションが向上している。外来スタッフの病棟応援も業務内容を拡大し、外来クラークによる病棟クラーク応援を開始した。限られた時間ではあるが積極的に関わることができ、約 6 人工の応援を出すことができ、看護部に貢献できたと考える。

外来係長 水野 英子

【リハビリテーション室】

■職場方針

私たちは、患者と同じ視線を持ち退院後の生活を重視したリハビリテーション医療を提供します

■目標

1. 診療報酬、介護報酬改定後の安定稼動

- 1) サービス提供量の充実(患者1人提供量)
回復期 6.6、一般 3.9、療養 1.0 単位
- 2) 療法士1人あたり 17.0 単位/日 取得
- 3) 訪問リハビリ提供量の充実
利用者数 67 名、提供回数 949 回
- 4) 超過勤務時間削減
入院 10 時間/訪問リハ 20 時間以内
- 5) 回復期リハ病棟の口腔衛生、機能管理料における DH の役割の模索

2. 質の高い医療介護サービスの提供

- 1) 情報発信力の強化
 - 1 HP 更新による情報発信
 - 2 自主訓練動画の作成と提供
 - 3 パンフレット配布と後方施設との連携
- 2) 定期評価のシステム化
 - 1 PJ 結成から運用確立とマニュアル化
 - 2 医事とテンプレート導入に向けた検討
- 3) 先駆的リハビリテーションの提供
 - 1 各種機器使用による効果検証
 - 2 各種機器使用による治療支援
- 4) 資格取得者を活かした取り組み(3件以上)
- 5) 医療介護によるシームレスな連携の構築
 - 1 退院前 CF とリハビリ会議への参加
 - 2 訪問リハに繋がる入院中の仕組み作り

3. 人材育成に対する支援体制の再編

- 1) 積極的な治療的 OJT の実践
 - 1 運用方法の確立
 - 2 昨年度実績以上の実践
- 2) 各専門職教育課程の認定者支援
- 3) 院外学会報告 12 本/年以上と次年度準備
- 4) 研修会や講習会、認定専門職への支援

4. 新たな事業の創出と地域貢献への取り組み

- 1) 総合事業の効果判定の実施
- 2) 予防的リハビリテーションの仕組み作り
- 3) 次世代育成に向けた新たな事業の創出
- 4) 運転評価後のフォローアップ体制の構築

■振り返り

1. 診療報酬、介護報酬改定後の安定稼動

- 1) 回復期 6.2、一般 3.4、療養 0.9 単位
感染や休職者による欠員の影響で未達
- 2) 15.8 単位(PT17.2/OT16.6/ST13.5)

人員配置の是正や CF 参加人数の限局化を図ったが 1)同様に予算未達であった

- 3) 利用者数 70 名、提供回数 999 回
土曜日開放、リハ事務の業務安定化、ZEST 導入により達成
- 4) 入院 15 時間 15 分/訪問リハ 20 時間 35 分
調整や検討事項が増加し未達成。個人差が大きいことが課題
- 5) 要件合わず不可

2. 質の高い医療介護サービスの提供

- 1) -1 ブログは更新が増加したが、HP の内容修正までは至らずに未達であった
-2 一部動画は作成中。他施設の動画の活用を併せて次年度に検討する
-3 ST 富丘へ配布。在宅福祉部リハの助力を得て具体的な連携方法を検討する
- 2) 定期評価は実施。次年度の持ち越し課題
- 3) -1 ウォークエイド、VitalStim の院外報告が 2 件と達成した
-2 勉強会開催、治療的 OJT による支援を行い達成した
- 4) 認知症者の訪問相談出向(認知症ケア専門士)、装具 CF 運用の見直し(下肢装具アドバイザー)、倫理 CF 開催(臨床倫理アドバイザー)、総合事業参画(地域リハ推進員)により達成した
- 5) -1 退院時共同指導加算を取得し達成
年度末で 20 件実施
-2 兼務者の役割の明確化により達成

3. 人材育成に対する支援体制の再編

- 1) 治療的 OJT の実践は出来ているものの、仕組み作りまで至らずに未達成となった
- 2) 地域リハ推進員 1 名、登録 PT1 名、前期研修修了者 3 名以上で達成
- 3) 院外報告 11 本/年で未達成
- 4) 支援件数 7 件で未達成

4. 新たな事業の創出と地域貢献への取り組み

- 1) 10 か所で評価測定を実施し達成
静岡産業大学と評価内容の精査を実施
- 2) 院内腰痛体操を 7 月から実施。現在は各職場で取り組み、リハビリはアドバイザーとして活躍。次年度も継続課題とする
- 3) 袋井市と協議はしているが、現状ではでんでん体操以外の選択肢の創出は困難。今後は参加者数が少ない地域へ集中的にリハ職員を派遣するなど運用を検討する
- 4) 達成。ペーパードライバー講習会のアルゴリズムを変更した。

室長 豊田 貴信

【薬剤室】

■目標

1. 薬剤管理指導業務の充実
2. 医薬品適正使用（プレアボイド）の推進
3. 後発医薬品への切り替え

■振り返り

1. 薬剤管理指導業務の充実
 - ・190 件/月（非算定件数を含む）の薬剤管理指導件数を目標とし、年間を通して 193.4 件/月と目標達成した。
 - ・回復期リハビリテーション病棟において、ポリファーマシー対策として薬剤調整を行った。薬剤総合評価調整加算は 2.9 件/月となり、算定条件を満たす患者に対して 45.5%の取得率であった。
 - ・退院時薬剤情報連携加算取得を開始したが、年間を通して 9 件であった。
2. 医薬品適正使用（プレアボイド）の推進
 - 副作用の重篤化回避：2 件
 - 薬物治療効果の向上：10 件
 - 計 12 件のプレアボイド報告があった。
3. 後発医薬品への切り替え
 - 2024 年度は 7 薬剤を後発医薬品に変更し、医薬品費の削減に貢献した。

薬局長 滝浪 素由

【臨床検査室】

■目標

1. 多職種連携による安全で質の高い医療サービスの実践
2. 検査ニーズへの柔軟な対応
3. 業務体制・運用改善による超過勤務削減とコスト管理
4. タスク・シフト/シェアの実践による業務範囲拡大
5. 労働環境の整備

■振り返り

1. 検査値の精度保証のため、外部精度管理調査を受審し、良好な結果を得ている。
チーム医療として、NSTカンファレンスで評価に用いる検体検査項目の評価・情報提供を行った。B型肝炎再活性化への対応として、対象患者の抽出、精査必要性の確認と主治医へのコメントや代行入力を薬剤室と連携して実施した（265件）。
細菌検査依頼状況、微生物検出状況を院内感染対策委員会へ報告、耐性菌検出状況を含む感染レポートを職員へ配信し情報共有を行った。
2. 2024年5月より、新たに標準純音聴力検査を開始し、運用整備・要員の教育を実施した。
要員の異動に伴い、心臓・下肢血管・腹部等の超音波検査の対応に支障がないよう技術教育を進めた。
3. 毎月、検査に要する診材・試薬の定数管理と単価評価を行い、コスト管理を徹底した。
外部委託業者の検体回収時間を早めることで、超過勤務を削減した（下半期一月あたり約10時間減）。
4. 特定行為である鼻腔・咽頭拭い液の検体採取の実践を継続し、新型コロナウイルス・インフルエンザウイルスの病棟での検体採取と検査を実施した（183件）。
その他臨床検査技師の実施可能な業務を見出し、更なるタスクシェアを進めることが今後の課題。
5. 手書き運用の廃止、検査システムのマスタ整備、採血枕の変更などにより、作業効率改善、安全性向上を図った。

技師長 清水 美千絵

【画像診断室】

■目標

1. 医療安全体制の確立と実践
 - ・患者誤認、部位誤認事例（Lv.1 以上） 0
 - ・検査中の緊急時対応運用の確認
2. 地域の公益的な取り組み
 - ・CT 地域共同利用件数 5%増
 - ・袋井市保健事業への参画
ふくけん・オレンジ検診
3. ニーズにあった画像、検査枠の提供
 - ・VF、嚥下レントゲン検査枠増
 - ・整形外科 CT、MRI 検査枠拡大検討
4. 次期システム（電子カルテ・RIS・PACS）更新準備

■振り返り

1. 患者取り違え事例、患者に被害が及ぶ事例 0。誤認事例 3 件（うち 2 件撮影装置の名前登録間違い）インシデント発生時は、スタッフ全員で即座に事例共有と 3 点照合の手順を全員で確認している。撮影後の検像を導入することを視野に運用検討を行う予定。
検査中の緊急時対応運用の確認を画診スタッフ、外来看護師で行った。また、CT 造影検査中を想定したロールプレイも実施した。
2. 近隣開業医からの検査受託は当日依頼も対応しており、CT・MRI とともに前年比 124%となった。ふくけんは 2024 年 2 月～8 月、2025 年 2 月～8 月と継続実施。
3. 6 月より VF 検査枠増枠（週 2 枠）嚥下機能評価が必要な患者に対しスピーディーに対応できている。嚥下レントゲンは減少傾向。
外来診療に合わせた CT、MRI、TV 検査枠提供ができています。
4. 画像診断部門の運用を鑑みた RIS、PACS、電子カルテの選定を行った。更新に向け、さらなる事前準備を進めていく。

室長 疋野 奈央子

【栄養管理室】

■目標

1. 安全で質の高い食事サービスの提供
 - ・毎月 1 回以上のイベント食の企画、栄養部門対抗料理対決への参加等を通して調理技術、食事満足度の向上を図る
 - ・衛生アドバイザー評価 93%以上
 - ・妥当性ある食事サービス提供業務委託契約を締結する
2. 安全で質の高い医療サービスの提供
 - ・各病棟に管理栄養士を配置し、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 や NST 加算算定等を通じて栄養状態改善に寄与する
 - ・栄養補助食品を見直し、より効果的な栄養治療につなげる
3. 人材育成の推進
 - ・NST40 時間実地修練 3 名/年の調整
 - ・事業計画や栄養部門でのワーキング活動を通し、チームワークや関係を構築する力を養う
4. ディーセント・ワークの推進
 - ・全員が 45 分以上の昼休憩が確保できる
5. 災害対策の強化
 - ・食事に関わる指示ができる体制の整備

■振り返り

1. 委託会社と協力しながらイベント食の企画や献立改善、衛生改善に取り組み、例年並みの食事満足度や衛生状態の維持向上を図れた。米の価格高騰が著しく、米を食単価から切り離し米穀店より直接購入する他、業務改善により業務委託費の増額抑制につなげた。
2. 管理栄養士の専任配置により、各種算定を開始でき、体重減少率低下などの効果も確認できた。次年度は売店での栄養補助食品の取り扱いを見直し、効果的な栄養治療と利便性向上に取り組む。
3. NST40 時間実地修練は、薬剤師 1 名、看護師 2 名が受講し、NST 加算算定につなげることができた。NST の安定稼働を目指し、今後も継続する。
事業計画や栄養部門 Vision2025 のオーナー/リーダーとして関わることで、病院や栄養部門が抱える課題解決に取り組み、活動を通してリーダーシップ力などを養った。
4. 管理栄養士 3 名体制となり残業は減少したが十分な昼休憩の確保には至らなかった。
5. 各訓練でマニュアルの不備は確認できた。配送マニュアルの整備や発災から 72 時間のタスク一覧と合わせ次年度取り組む。

室長 望月 麻妃

【事務課】

■目標

1. 患者・近隣施設・学生の琴線に触れる（選ばれる、良さそうな病院だねと思われる）ために創意工夫した、病院実績・病院機能の魅力的な情報提供。
2. 病院の課題・サービスの向上に対して、事務課の枠を飛び出して他職場を巻き込んだ改善策の提案。
3. 超過勤務時間が年 360 時間を超過しない職場環境づくり。
4. 収益アップ（またはコストダウン）、利用者増のための企画、同業他事業所とのベンチマーク、質改善指標の提案。

■振り返り

1. 職員の育児休職に伴い、係ローテーションを実施した。10 月に役職者登用、12 月に新規採用、3 月に施設間異動者の受入を行い、組織の体制を大きく見直した。
2. 回復期リハビリテーション病棟入院料 1 の届出を、当初の予定から前倒し、2025 年 2 月から算定を開始することができた。重症度の基準を満たすことができるよう、他部署と連携した活動に取り組むことができた。
3. 電子カルテシステム更新のため、システムベンダーの候補者選定、院内デモ等を実施した。機能比較・費用対効果等の検証をして、2027 年 9 月の更新を見据えた活動を継続していく。
4. 2025 年 12 月の病院機能評価の更新を目指したプロジェクトの事務局を担い、受審に向けた領域別ワーキンググループ編成し、組織的な改善活動、自己評価へ取り組む体制を整えた。
5. 中・高校生を対象に、病院での仕事に触れ、就職先・進学先の選択肢として医療従事者を目指してもらうためのイベント「お仕事リサーチ」を開催した。
6. 高次脳機能障害への理解を深めるため、高次脳機能障害友の会や相談支援事業所 M ネットと協力した勉強会を開催した。
7. サイバー攻撃への脅威に備え、IT-BCP を作成するとともに、標的型攻撃メール訓練を行い、職員の IT リテラシー向上に取り組んだ。
8. 業務改善報告会には 3 係・1 委員会が発表し、生理検査結果のペーパーレス化・入院手続き改善への取組みが優秀賞として評価された。

課長 松井 克章

学術実績（講演・学会発表）

リハビリテーション科	
区分	シンポジウム
演題名	プライマリ・ケア医として、患者の自動車運転をどう考えるか、
演者・共同演者	望月ら
学会名等	第15回日本プライマリ・ケア連合学会学術大会、2024、浜松
区分	講演
演題名	リハビリテーション目標設定
演者・共同演者	望月亮
学会名等	日本プライマリ・ケア連合学会 総合医育成プログラム 2024
看護部	
区分	講演
演題名	特定行為研修終了者が組織ビジョンを踏まえた上で自らの活動を考える
演者・共同演者	渡邊真智子
学会名等	特定行為研修終了者研修会（西部地区）.2024.10.12.静岡
区分	学会発表
演題名	円滑なコミュニケーションと見守り方の標準化で転倒を減らす～年度初めの転倒数低減のための取り組み～
演者・共同演者	渡邊真智子、村松亜由美、岡田史郎
学会名等	第11回日本転倒予防学会学術集会 2024.11.23-24.佐賀
区分	学会発表
演題名	終末期がん患者が抱えるスピリチュアルペインとそのケアについての検討～村田理論を用いた一考察～
演者・共同演者	長尾香奈
学会名等	第15回せいいい看護学会学術集会 2024.9.14.静岡
区分	学会 特別企画
演題名	医療 MaaS と看護のコラボレーション ワークショップの実践報告
演者・共同演者	渡邊真智子
学会名等	第28回日本看護管理学会学術集会.2024.8.23-24.愛知
区分	学会発表
演題名	日常の看護の中で生じる負の感情への考察
演者・共同演者	山下静里花
学会名等	第15回せいいい看護学会学術集会 2024、静岡
区分	学会発表
演題名	A病棟の訪問診療における患者家族の満足感と今後の課題
演者・共同演者	水野英子、春日三千代
学会名等	第13回静岡県看護学会 2025.1.11、静岡
リハビリテーション室	
区分	学会発表
演題名	条件をつけたことで自動車運転再開した事例 一運転日誌を利用した外来リハビリの継続
演者・共同演者	磯村和佳奈、鈴木健人、平野絵理香、佐野真裕子、望月亮
学会名等	第6回聖隷リハビリテーション学会 2024.9.28 聖隷浜松病院
区分	学会発表
演題名	上肢の感覚性運動失調に焦点を当て介入し、食事動作における満足度が向上した症例
演者・共同演者	稲垣泰斗、高橋勇貴、八木翔平、北矢大典
学会名等	第6回聖隷リハビリテーション学会 2024.9.28 聖隷浜松病院
区分	学会発表
演題名	A病棟回復期病棟における装具カンファレンス運用の在り方に対する検討 一下肢装具作成者の後方視調査を通して
演者・共同演者	籠池康太、則次祐美、神谷康貴、中村美南、松浦万裕子、豊田貴信
学会名等	回復期リハビリテーション病棟協会第45研究大会 in 札幌 2025.2.21-22 札幌コンベンションセンター
区分	学会発表
演題名	環境設定により麻痺側の使用回数が増え行動変容に繋がった症例
演者・共同演者	片桐綾華、橘内ひとみ、八木晴菜、森下直彦、佐藤一樹、稲垣真衣
学会名等	第6回聖隷リハビリテーション学会 2024.9.28 聖隷浜松病院
区分	学会発表
演題名	左視床出血による歩行時の足関節内反に対して、機能的電気刺激装置を使用し、独歩獲得に至った症例
演者・共同演者	小島将吾、神谷康貴、籠池康太、松浦万裕子
学会名等	第6回聖隷リハビリテーション学会 2024.9.28 聖隷浜松病院

区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	学会発表 運転日誌を活用して自動車運転を再開し職場復帰可能となった事例 杉山佳南、奥田莉奈、田中祐大、鈴木翔 第 6 回聖隷リハビリテーション学会 2024.9.28 聖隷浜松病院
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	学会発表 「自己認識」に着目したアプローチと代償手段の獲得によりグランドゴルフに参加できた症例 鈴木友紀乃、八木翔平、田中祐大、森下直彦、稲垣真衣、鈴木琢弥 第 6 回聖隷リハビリテーション学会 2024.9.28 聖隷浜松病院
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	学会発表 歩行介助量が見守りから中等度介助までの日差があり装具選定に難渋した CVA 症例 中村美南、北矢大典、荻原旦彩 第 6 回聖隷リハビリテーション学会 2024.9.28 聖隷浜松病院
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	学会発表 高齢・認知機能低下を認める重度嚥下障害に対して NMSE 以下；(VitalStim) を使用した 1 症例 村松麻希、浅野全子、望月亮、竹原誠也 回復期リハビリテーション病棟協会第 45 研究大会 in 札幌 2025.2.21-22 札幌コンベンションセンター
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	論文 Impact of Hospital Dentistry on Patients' Food Intake Status in Convalescent Rehabilitation Ward Tomohisa Ohno, Izumi Terada, Akiko Nomoto, Ichiro Fujishima, Yasuyuki Iwasa, Yoshiko Umeda, Daisuke Kanamori, Masako Kishima, Hideo Sakaguchi, Koichiro Matsuo, Yasutomo Motohashi, Kenichiro Ozaki, Shunsuke Minakuchi Journal of Oral Rehabilitation. 2024 Nov;51(11):2467-2474.
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 西部地区の実践報告～訪問型サービス C の関わり～ 長田圭太郎 静岡県作業療法士会 地域包括ケアシステム推進委員会（実践者研修）2025.1.26 静岡レイアアップ御幸町ビル
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 訪問型サービス C の事業説明と OT の役割について～袋井市の取り組み紹介～ 佐野真裕子 静岡県作業療法士会 地域包括ケアシステム推進委員会（実践者研修）2025.1.26 静岡レイアアップ御幸町ビル
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 在宅における口腔ケアのポイントを知ろう 寺田泉 ナーシング・スキル 訪問看護コース 2024.4.1 公開
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 生態心理学的概念に基づいた評価・治療～インフォメーション～ 豊田貴信 エコロジカル・アプローチ研究会講習会 2025.3.9 中京病院
薬剤室	
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	学会発表 当院における 5%スコポラミン軟膏の使用評価 山本紳一郎 ¹⁾ 、小出彰文 ²⁾ 、田原みどり ²⁾ 、保母薫里 ²⁾ 1)聖隷袋井市民病院、2)聖隷三方原病院 第 34 回日本医療薬学会 2024.11.2-4

地域における講演	
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演・事例発表 「袋井市版入退院連携フローチェックリスト」を通して事例で考える入退院時における医療・介護連携 望月亮（医師）、渡邊真智子（看護師） 第一回袋井市在宅医療・介護連携推進事業研修会 2024.8.21 Web
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 認知症外来と認知症初期集中支援チームの活動について 鈴木明日香 袋井市在宅医療・介護連携推進事業研修会 2025.2.14 Web
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～ 村松亜由美（看護師） 市民向け ACP 出張講 2024.5.2 袋井東コミュニティセンター

区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～ 荒木麻美（看護師） 市民向け ACP 出張講座 2024.9.9 平宇公会堂
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～ 片岡祐希（看護師） 市民向け ACP 出張講座 2024.10.23 笠原コミュニティセンター
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～ 荒木麻美（看護師） 市民向け ACP 出張講座 2024.12.18 豊沢ふれあい会館
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～ 片岡祐希（看護師） 市民向け ACP 出張講座 2025.1.19 袋井西コミュニティセンター
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～ 村松亜由美（看護師） 市民向け ACP 出張講座 2025.1.22 山名コミュニティセンター
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～ 鈴木翔（作業療法士） 市民向け ACP 出張講座 2025.2.26 浅羽東コミュニティセンター
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 「こころのノート」～気軽に始める ACP（人生会議）～ 辻昌伸（作業療法士） 市民向け ACP 出張講座 2025.3.18 砂本町集会場
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	講演 当院における自立支援にむけた取り組み～自宅でお風呂に入り続けるために～ 板倉陽香 袋井市地域リハビリテーション推進研修会 2025.1.16 袋井市総合健康センター
ICLS コース	
タイトル 開催日 講師 参加人数	ICLS コース 2月15日 西田淳（内科） 6名

学術実績（著書・論文）

リハビリテーション科	
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	論文 回復期リハビリテーション病棟での歩行レベル評価尺度 Walking LEVEL Scale（WaLS）の開発と信頼性・妥当性の検討. 望月亮, 豊田貴信, 神谷康貴, 鈴木美穂子, 吉本好延. Jpn J Rehabil Med 2024;61:301-310
リハビリテーション室	
区 演 題 名 演者・共同演者 学 会 名 等	論文 Impact of Hospital Dentistry on Patients' Food Intake Status in Convalescent Rehabilitation Ward Tomohisa Ohno, Izumi Terada, Akiko Nomoto, Ichiro Fujishima, Yasuyuki Iwasa, Yoshiko Umeda, Daisuke Kanamori, Masako Kishima, Hideo Sakaguchi, Koichiro Matsuo, Yasutomo Motohashi, Kenichiro Ozaki, Shunsuke Minakuchi Journal of Oral Rehabilitation. 2024 Nov;51(11):2467-2474.

教育実績

【階層別研修】

■新入職員導入研修

ねらい	聖隷袋井市民病院が目指す医療を理解する
開催日	2024年4月1日（月）
会場	聖隷袋井市民病院
参加人数	14名（施設間異動者、中途採用者含む）

■新入職員研修

ねらい	就職してからの2か月をふりかえり、組織の一員として自分が果たしていく役割を確認する
開催日	2024年5月9日（木）・10日（金）、5月16日（木）・17日（金）、 5月23日（木）・24日（金）、5月30日（木）・31日（金）のいずれか
会場	グランドホテル浜松
参加人数	9名

■1年目職員フォローアップ研修

ねらい	① チームメンバーであることを自覚し、責任を持って自らの役割を果たすことの意義を理解する ② 自分を成長させるために今後取り組むことを見出す
開催日	2024年10月16日（水）または10月17日（木）
会場	聖隷研修センター
参加人数	9名

■2年目職員研修

ねらい	① チームにおける自分の役割に気づき、自分の取り組むべきことを見出す ② 後輩指導をする時に大切にすべきことがわかる
開催日	2024年8月20日（水）・21日（木）または8月28日（水）・29日（木）
会場	聖隷研修センター
参加人数	5名

■中堅職員研修

ねらい	① チームの中でリーダーシップを発揮するために必要な知識・技術を学ぶ ② 自分を成長するために取り組むことを見出す
開催日	1回目：2024年6月6日（木）・7日（金）または6月13日（木）・14日（金） 2回目：2024年9月3日（水）または9月10日（水）または9月18日（水）
会場	1回目：グランドホテル浜松 2回目：聖隷研修センター
参加人数	12名

■ウェルカム研修

ねらい	① 聖隷福祉事業団の一員としての自覚を持つ ② チームに貢献するために自分がすべきことを見つける
開催日	2024年10月30日（水）または10月31日（木）
会場	聖隷研修センター
参加人数	3名

■キャリアデザイン職員研修

ねらい	① 自身のキャリアを振り返り、現状を客観的に把握する ② 顧客ニーズの変化や事業団のビジョンとその活動、組織が自身に求めている役割などを知り、事業団の中での自身の将来のビジョンを具体化する ③ 自己成長に向けて今後何をしていくべきなのかを段階的・構造的に整理し、明日からの行動に役立てる
開催日	2024年8月6日（火）または8月22日（木）または8月23日（金）または8月30日（火）
会場	法人本部7階研修室
参加人数	4名

【NR 研修（看護部・リハビリテーション室）】

■新入職員研修

ねらい	1) 聖隷袋井市民病院の職員として基本的な知識と技術について学ぶ 2) 協働して学ぶことで他職種の役割を知る
開催日	2024 年 4 月 1 日（月）～4 月 5 日（金） 2024 年 7 月 1 日（月）～7 月 9 日（火） シャドーイング
参加人数	11 名（施設間異動者含む）

■プリセプターフォローアップ研修①

ねらい	プリセプターシステムとプリセプターの役割を認識し、新入職員の特性を理解しプリセプターとしての支援スキルを学び実践につなげる
目標	1) 新入職員の特性や個性を理解し支援スキルを身に付ける 2) 実践して上手くいったこと、困った事等を共有し、今後の実践に役立てる
開催日	2024 年 7 月 18 日（水）14:00～16:00
参加人数	5 名

■プリセプターフォローアップ研修②

ねらい	プリセプターシステムとプリセプターの役割を認識し、新入職員の特性を理解しプリセプターとしての支援スキルを学び実践につなげる
目標	実践して上手くいったこと、困った事等を共有し、今後の実践に役立てる
開催日	2025 年 2 月 26 日（木）15:00～16:00
参加人数	8 名

■プリセプター導入研修

ねらい	プリセプターとして、新人職員の支援を行なうために必要な知識や役割を学ぶ
目標	1) プリセプターシステムとプリセプターの役割が理解できる 2) 新入職員の特性や個性を理解できる 3) 支援スキルについて理解できる 4) 自分がプリセプターとして大切にしたいことを確認する
開催日	2025 年 3 月 27 日（木）13:15～17:00
参加人数	8 名

【委員会主催研修（e-learning 含む）】

医療安全管理委員会	
タイトル	第 1 回医療安全講習会 Team STEPPS 研修「チェックバック」
開催日	2024 年 8 月 1 日～9 月 20 日
対象	必修：全職員（休職等 23 名除く）
参加人数	202 名
タイトル	第 2 回医療安全講習会 高齢者虐待における病院の役割
開催日	2024 年 12 月 1 日～31 日
対象	必修：全職員（休職等 17 名除く）
参加人数	197 名
タイトル	BLS 講習会
開催日	5 月～3 月（職場毎開催）
対象	必修：全職員（休職等 17 名除く）
参加人数	193 名
タイトル	リスクマネージャー講習会「病院機能評価の視点でみる医療安全」
開催日	2025 年 3 月 27 日
対象	医療安全に携わる方 自由参加
参加人数	20 名
タイトル	放射線業務従事者研修
開催日	2024 年 3 月 21 日～31 日
対象	放射線業務従事者、医師（必修）、放射線管理区域一時立ち入りの可能性がある者（任意）
参加人数	必修 11 名：100% 任意 115 名
タイトル	新入職員導入研修 医療安全管理について
開催日	2023 年 4 月 1 日
対象	新入職員 異動・中途採用者
参加人数	13 名

タイトル	看護部異動・中途採用者研修 医療安全について
開催日	2024年8月1日、10月8日
対象	看護部所属異動・中途採用者
参加人数	8名
院内感染対策委員会	
タイトル	カテーテル関連尿路感染（CAUTI）とは
開催日	7月19日・7月23日・8月7日
対象	必修：全職員（休職等20名除く）
参加人数	178名（伝達講習レポート提出12名）：92% *その他委託業者、袋井市職員11名参加
タイトル	飛沫感染対策—新型コロナウイルス感染症・インフルエンザー
開催日	11月28日・12月13日・12月17日
対象	必修：全職員（休職等17名除く）
参加人数	198名（伝達講習レポート提出5名）：99% *その他委託業者、袋井市職員1名参加
防災委員会	
タイトル	非常連絡網訓練（ANPIC）
開催日	6月14日
対象	全職員
参加人数	208名
タイトル	消火器・消火栓・搬送訓練
開催日	1) 7月12日 2) 7月24日
対象	全職員（3年間で1回参加）
参加人数	1) 29名 2) 25名
タイトル	管理者 非常連絡網配信訓練
開催日	8月～9月
対象	職場代表者
参加人数	10名
タイトル	火災訓練（机上訓練）
開催日	10月3日
対象	職員、袋井市職員、守衛室、監視盤
参加人数	—
タイトル	地震防災訓練
開催日	2月6日
対象	職員、袋井市職員、守衛室、監視盤
参加人数	—
医療ガス安全管理委員会	
タイトル	医療ガス研修会
開催日	2025年3月 資料配信＋確認テスト
対象	医療ガスを扱う職場スタッフ
参加人数	150名
利用者満足度向上委員会	
タイトル	信頼関係を築く医療接遇のあり方
開催日	8月19日～9月20日
対象	全職員
参加人数	受講率62%
安全運転委員会	
タイトル	第1回安全運転講習会／危険予知トレーニング（e-learning）
開催日	8月19日～9月9日
対象	全職員
参加人数	受講率42%
タイトル	第2回安全運転講習会／危険予知トレーニング（e-learning）
開催日	1月23日～2月14日
対象	全職員
参加人数	受講率39%
情報セキュリティ管理委員会	
タイトル	セキュリティ対策メール訓練
開催日	1月22日、23日
対象	メールアドレスを持っている職員全員
参加人数	76名（100%）

タイトル	講演会) 関ヶ原合戦に学ぶ情報セキュリティ
開催日	2月25日
対象	全職員
参加人数	7名(不参加の職員へは資料提供)
在宅支援室会議	
タイトル	ふくろい地域リハビリテーションをはぐくむ会
開催日	9月12日(木)・3月12日(水)
対象	全職員、袋井市内居宅介護支援事業所
参加人数	9月12日・・・27名(現地開催) 3月12日・・・33名(現地開催)
褥瘡対策委員会	
タイトル	新人職員対象褥瘡勉強会
開催日	7月2日
対象	看護部、リハビリテーション室の新入職員
参加人数	7名
認知症ケアプロジェクト	
タイトル	認知症とせん妄治療薬・認知症症状とケアのポイント
開催日	同じ内容で2回開催
対象	全職員
参加人数	計41名
緩和ケアプロジェクト	
タイトル	緩和看取りケアの薬剤(滝浪)
開催日	8月26日
対象	全職員
参加人数	31名
タイトル	緩和ケアにおけるコミュニケーション(西田)
開催日	9月30日
対象	全職員
参加人数	13名
タイトル	全人的苦痛と STAS-J(村松)
開催日	11月11日
対象	全職員
参加人数	25名

【外部主催研修 受け入れ】

静岡家庭医養成プログラム	
内容	リハビリテーション科 実習
期間	2～3月
人数	1名
法人本部主催 看護師特定行為研修	
内容	区分別：気管カニューレ交換
期間	9～12月
人数	2名
内容	区分別：創傷処置
期間	6～11月
人数	5名
内容	共通科目
期間	1月
人数	2名

【実習生受入れ】

聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部理学療法学科	総合実習Ⅰ	1名
聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部理学療法学科	総合実習Ⅱ	1名
聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部理学療法学科	評価実習Ⅰ	2名
聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部理学療法学科	検査測定実習	1名
聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部理学療法学科	生活支援実習	3名
聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部作業療法学科	総合実習Ⅰ	1名
聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部作業療法学科	評価実習	1名
聖隷クリストファー大学	リハビリテーション学部作業療法学科	応用実習	2名
豊橋創造大学	保健医療学部理学療法学科	総合実習	2名
常葉大学（静岡水落）	健康科学部理学療法学科	評価実習	1名
常葉大学（静岡水落）	健康科学部理学療法学科	評価実習	1名
常葉大学（浜松）	保健医療学部理学療法学科	評価実習	1名
常葉大学（浜松）	保健医療学部理学療法学科	総合実習Ⅰ	1名
常葉大学（浜松）	保健医療学部作業療法学科	総合実習	1名
常葉大学（浜松）	保健医療学部作業療法学科	評価実習	1名
常葉大学（浜松）	保健医療学部作業療法学科	地域作業療法実習	1名
常葉大学（浜松）	健康プロデュース学部健康栄養学科		2名
静岡医療科学専門学校	理学療法学科	総合実習Ⅱ	1名
静岡医療科学専門学校	作業療法学科	総合実習Ⅰ	1名
静岡医療科学専門学校	作業療法学科	総合実習Ⅱ	1名
豊橋創造大学	理学療法学科	総合実習	2名
東海アクシス看護専門学校	看護学科（3年生）	統合実習	3名
東海アクシス看護専門学校	看護学科（3年生）	老年看護学実習Ⅰ/おとなの生活再構築	6名
東海アクシス看護専門学校	看護学科（2年生）	おとなの生活再構築	6名
東海アクシス看護専門学校	看護学科（1年生）	マネジメント実習	6名
聖隷福祉事業団法人本部	特定行為研修（創傷管理関連）	区分別実習 壊死組織の除去	4名
聖隷福祉事業団法人本部	特定行為研修（在宅慢性期領域パッケージ）	区分別実習 壊死組織の除去	4名
聖隷福祉事業団法人本部	特定行為研修（在宅慢性期領域パッケージ）	区分別実習 気管カニューレ	2名
聖隷福祉事業団法人本部	特定行為研修	共通科目実習	2名
大原簿記専門学校浜松校	医療事務課医療事務コース		1名

メディア掲載

	掲載記事タイトル	掲載日	掲載紙
1	女性の地位向上や奉仕 30 周年 国際ソロプチミスト袋井関係者ら祝う	2024 年 11 月 30 日	中日新聞

袋井市との協働

■各種委員等

組織名	職 種	氏 名
袋井市在宅医療介護多職種連携推進会議委員	社会福祉士	内山 安寿佳
袋井市在宅医療介護多職種連携推進事業ワーキンググループメンバー	医師	望月 亮
袋井市介護予防・日常生活支援推進会議委員	理学療法士	豊田 貴信
認知症初期集中支援チーム	医師	宮本 恒彦
	看護師	鈴木 恵子
	看護師	秋山 友喜美
	作業療法士	鈴木 明日香
	作業療法士	板倉 陽香
	作業療法士	高橋 勇貴
地域リハビリテーション推進員	理学療法士	豊田 貴信
	理学療法士	岡田 史朗
	理学療法士	辻 昌伸
	理学療法士	後藤 洸貴
	作業療法士	佐野 真裕子
	作業療法士	鈴木 翔
総合事業・現行相当サービス利用に関する検討会メンバー	理学療法士	岡田 史朗

■集団指導

名 称	日 時	場 所	講 師
フレイル予防講座	10月15日	浅羽東コミュニティセンター	藤田 智大
	2月5日	三川コミュニティセンター	豊田 貴信
でん伝体操 効果測定	6月20日	幸浦コミュニティセンター	鈴木 琢弥
	6月25日	深見東公会堂	藤田 智大
	6月27日	浅羽東コミュニティセンター	鈴木 琢弥
	7月5日	山科下公会堂	鈴木 琢弥
	7月16日	豊沢ふれあい	後藤 洸貴
	7月16日	大野研修センター	藤田 智大
	7月18日	農村管理センター	藤田 智大
	8月21日	袋井西コミュニティセンター	後藤 洸貴
	8月26日	長溝公会堂	後藤 洸貴
	8月29日	土橋公会堂	後藤 洸貴
	11月21日	幸浦コミュニティセンター	藤田 智大
	11月29日	深見東公会堂	藤田 智大
	12月5日	浅羽東コミュニティセンター	後藤 洸貴
	12月13日	山科下公会堂	後藤 洸貴
	12月17日	豊沢ふれあい	佐藤 允
	12月19日	大野研修センター	藤田 智大
	12月24日	農村管理センター	後藤 洸貴
	1月23日	袋井西コミ	佐藤 允
	1月27日	長溝公会堂	後藤 洸貴
	1月28日	土橋公会堂	佐藤 允

■個別訪問

名 称	日 時	場 所	講 師
リハ職の訪問相談	5 月 17 日	袋井市山科	辻 昌伸
	5 月 28 日	袋井市久能	辻 昌伸
	7 月 19 日	袋井市湊	鈴木 翔
	10 月 15 日	袋井市方丈	辻 昌伸
	10 月 21 日	袋井市西田	辻 昌伸
	12 月 25 日	袋井市月見町	辻 昌伸
	2 月 14 日	袋井市久能	岡田 史郎
認知症初期集中 支援チーム訪問	2 月 12 日	袋井市内	鈴木 明日香

「2024 年度 袋井市立聖隷袋井市民病院年報」第 3 号 2025 年 8 月

〒437-0061 静岡県袋井市久能 2515 番地の 1

TEL 0538-41-2777 FAX 0538-41-2813

URL <https://www.seirei.or.jp/fukuroi/index.html>

発行者 林泰広

編集者 事務課